チキ+B-90

宮内省圖書寮

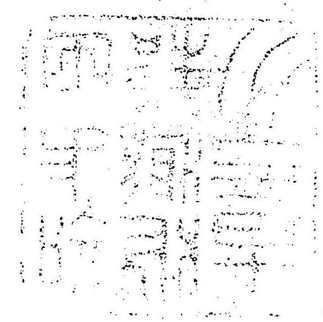
宮内省圖書寮

滋賀縣兵事課長田中知邦編纂

現行兵事布令要録

紀元二千五百四十七年新刊

CZ
671
04



明治十五年一月四日陸海軍軍人へ

勅諭寫

我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所なりとある昔神武天皇躬つから大伴物部の兵ともを率ゐ中國のまつろはぬものどもを討ち平け給ひ高御座に卽かせられて天下をしろしめし給ひしより二千五百有餘年を經ぬ此間世の樣の移り換るに隨ひて兵制の沿革ぬも亦屢なりき古は天皇躬つから軍隊を率ゐ給ふ御制にて時ありては皇后皇太子の代らせ給ふことともありつれと大凡兵權を臣下に委ね給ふことはなかりき中世に至りて文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ六衛府を置き左

右馬寮を建て防人なと設けられしかハ兵制は整ひたれとを打續ける昇平に狃れて朝廷の政務も漸文弱に流るけれは兵農おのつから二に分れ古の徴兵はいつゝなく壯兵の姿に變り遂に武士となり兵馬の權は一向に其武士ゝもの棟梁たる者に歸し世の亂ゝ共に政治の大權も亦其手に落ち凡七百年の間武家の政治とはなりぬ世の樣の移り換りて斯かれるは人力もて挽回もへきにあらさるとはいひなから且は我國體に冥り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間しき次第なりき降りて弘化嘉永の項より德川の幕府其政衰へ剩外國の事とも起りて其侮をも受けぬへき勢に迫りけれは朕か皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇いたく宸襟を惱し給ひしこそ忝くも又惶けれ然るに朕幼くして天津日嗣を受けし初征夷大將軍其政權を返上し大名小名其版籍を奉還し年を經ゝして海内一統の世となり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良弼ありて朕を輔翼せる功績なり歷世祖宗の專蒼生を憐み給ひし御遺澤なりといへとも併我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義の重きを知れるか故にこそあれされハ此時に於て兵制を更め我國の光を耀さんと思ひ此十五年か程に陸海軍の制をは今の樣に定めぬ夫兵馬の大權ハ朕か統ふる所なれは其司々をこそ臣下には任ゝなれ其大綱は朕

親之を攬り肯て臣下に委ぬへきものにあらず子々孫々に至るまて篤く斯旨を傳へ天子は文武の大權を掌握せるの義を存して再中世以降の如き失體なからんことを望むなり朕も汝等軍人の大元帥なるそされは朕は汝等を股肱と頼み汝等は朕を頭首と仰きて其親は特に深かるへき朕か國家を保護して上天の惠に應し祖宗の恩に報いまゐらする事を得るも得さるも汝等軍人か其職を盡すと盡さゝるとに由るそかし我國の稜威振はさることあらは汝等能く朕と其憂を共にせよ我武維揚りて其榮を耀さは朕汝等と其譽を偕にすへし汝等皆其職を守り朕と一心になりて力を國

家の保護に盡さは我國の蒼生は永く太平の福を受け我國の威烈は大に世界の光華をもなりぬへし朕斯も深く汝等軍人に望むなれは猶訓諭すへき事こそあれいてや之を左に述へむ

一軍人ハ忠節を盡すを本分とすへし凡生を我國に稟くるもの誰かは國に報ゆるの心なかるへき況して軍人たらん者は此心の固からては物の用に立ち得へしとも思はれす軍人にして報國の心堅固ならさるは如何程技藝ふ熟し學術に長するも猶偶人にひとしかるへし其隊伍も整ひ節制も正くとも忠節を存せさる軍隊は事に臨みて烏合の衆に同かるへし

抑國家を保護し國權を維持するは兵力に在れは兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ世論に惑はす政治に拘らす只々一途に己か本分の忠節を守り義ハ山嶽よりも重く死は鴻毛よりも輕しと覺悟せよ其操を破りて不覺を取り汚名を受くるなかれ

一軍人は禮儀を正くすへし凡軍人には上元帥より下一卒に至るまて其間に官職の階級ありて統屬するのミならす同列同級とても停年に新舊あれは新任の者は舊任のものに服從すべきものそ下級のものは上官の命を承ること實は直に朕か命を承る義なりと心得よ己か隸屬する所にあらすとも上級の者は

勿論停年の己より舊きものに對しては總へて敬禮を盡すへし又上級の者は下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞あるへからす公務の爲に威嚴を主とする時は格別なれとも其外は務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心掛け上下一致して王事に勤勞せよ若軍人たるものにして禮儀を紊り上を敬はす下を惠ますして一致の和諧を失ひたらんには啻に軍隊の蠧毒たるのみかは國家の爲にもゆるし難き罪人なるへし

一軍人は武勇を尚ふへし夫武勇ハ我國にては古よりいとも貴へる所なれは我國の臣民たらんもの武勇

なくては叶ふまじ況して軍人は戰に臨み敵に當る
の職なれは片時も武勇を忘れてよかるへきかさハ
あれ武勇には大勇あり小勇ありて同からす血氣に
はやり粗暴の振舞なとせんは武勇とは謂ひ難し軍
人たらむものは常に能く義理を辨へ能く膽力を練
り思慮を殫して事を謀るへし小敵たりとも侮らす
大敵たりとも懼れす已か武職を盡さむこそ誠の大
勇にはあきされは武勇を尚ふものは常々人に接る
には温和を第一とし諸人の愛敬を得むと心掛けよ
由なき勇を好みて猛威を振ひたらは果ハ世人も忌
嫌ひて豺狼なとの如く思ひなす心すへきことにそ

一軍人は信義を重んすへし凡信義を守るまと常の道
にはあれとわきて軍人は信義なくては一日も隊伍
の中に交りてあらんこと難かるへし信とは已か言
を踐行ひ義とは已か分を盡すをいふなりされは信
義を盡さむと思はゝ始より其事の成し得へきか得
へからさるかを審に思考すへし朧氣なる事を假初
に諾ひてよしなき關係を結ひ後に至りて信義を立
てんとすれは進退谷りて身の措き所に苦むことあ
り悔ゆとも其詮なし始に能々事の順逆を辨へ理非
を考へ其言は所詮踐むへからさるを知て其義をと
も守るへからすと悟りなは速に止ることそよけれ古

より或は小節の信義を立てんとて大綱の順逆を誤り或は公道の理非に踏迷ひて私情の信義を守りあたら英雄豪傑をも禍に遭ひ身を滅し屍の上の汚名を後世まで遺せること其例尠からぬものを深く警めてやはあるへき

一軍人は質素を旨とせしし凡質素を旨とせされは文弱に流れ輕薄に趨り驕奢華靡の風を好み遂には貪汚に陷りて志も無下に賤くなり節操も武勇も其甲斐なく世人に爪はしきせらるゝ迄に至りぬへし其身生涯の不幸なりといふも中々愚なり此風一たび軍人の間に起りては彼の傳染病の如く蔓延し士風も兵氣も頽に衰へぬへきこと明なり朕深く之を懼れて曩に免黜條例を施行し略此事を誡め置きつれと猶も其惡習の出んことを憂ひて心安からねは故に又之を訓ふるそかし汝等軍人ゆめ此訓誡を等閑にな思ひそ

右の五ケ條は軍人たらんもの暫も忽にすへからさて之を行はんには一の誠心こそ大切なれ抑此五ケ條は我軍人の精神にして一の誠心は又五ケ條の精神なり心誠ならされは如何なる嘉言も善行も皆うはへの裝飾にて何の用にかは立つへき心たに誠あれは何事も成るものそかし況してや此五ケ條は天地の公道人

倫の常經なり行ひ易く守り易し汝等軍人能く朕か訓に遵ひて此道を守り行ひ國に報ゆるの務を盡さゝ日本國民蒼生擧りて之を慨ひなん朕一人の懌のみならんや

明治十五年一月四日

御名

現行兵事布令要錄

緒言

兵ハ外侮ヲ禦ギ內亂ヲ鎭メ邦土ヲ守護シ國權ヲ維持スル者ナレバ兵力ノ消長ハ直チニ國運ノ盛衰ニ關スルヲ以テ軍備ヲ整ヘ兵力ヲ强クスルノ法ハ講究セザル可カラズ明治中興ノ始メ首トシテ陸海軍ノ制ヲ設ケ年ニ增シ月ニ益シテ之ヲ擴張シ內ハ古典ニ則リ外ハ各國ノ新律ヲ取リ大ニ舊制ヲ改メ新法ヲ建ツ今ヤ殆ト具ラザルナキニ至ル盛ナリト謂フベシ就中地方官ニ於テ掌理スル所ノ兵務中特ニ緻密周到ヲ期スルモノハ徵兵ナリ夫レ國家有事ノ際身命ヲ拋ヲ彈丸ヲ

冒シ劍戟ヲ踏ミ戰ニ臨ミ敵ニ當ル者ハ軍人ナリ而シテ其軍人ヲ撰出スルハ則チ徵兵ノ事務ナリ故ニ其徵否ノ區分徵集ノ順序ハ精密嚴正ナラザル可ラズ又召集ハ戰時事變ニ方リ戰列隊ヲ編制スル等ノ爲メ鄕土ノ諸兵ヲ召集スルノ事務則チ是ナリ故ニ其非常急變ニ應ズルヤ晝夜ヲ辨セズ之ニ從事シ即時ニ處辨セサル可ラズ假令分秒時間ト雖モ出師ヲ遲滯シ軍機ヲ失スル等ノ事アレバ實ニ國家ノ安危ニ關シ容易ナラサルナリ愼ミ重ゼザル可ケン哉故ニ苟モ兵事ニ與カル者ハ平素其事ニ關スル法律規則ヲ詳細ニ講明シ事ニ臨ミ機ニ應シテ錯誤ナキハ勿論ニシテ處務遲滯ナキヲ要トス殊ニ出師準備ニ至リテハ大平無事ノ日ト雖モ猶戰時事變ニ處スルガ如ク鄭重ニ意ヲ加ヘ少シモ之ヲ忽ニス可ラズ凡ソ兵事ハ尋常ノ行政事務ト同一ノ者ニアラズ又其法律規則ハ常ニ座右ニ置テ一日モ缺ク可カラズ然ルニ世末ダ簡明ニシテ且ツ完全ナル法書アラズ皆以テ憾トナス予自ラ測ラズ公務ノ暇維新以來ノ法令中兵事ニ關係シ且ツ緊要ナル者徵兵、在鄕兵、召集、演習、戒嚴、徵發等ノ勅令閣省令幷ニ太政官以下ノ布告布達及本縣ノ布令等ヲ蒐輯シ其沿革ヲ明ニシ現行ヲ顯シ務メテ簡捷ニシテ一見了然ナラシメ以テ參考ニ備フ書成テ名ケテ兵事布令要錄ト曰フ果シ

テ法律規則檢討ノ勞ヲ省キ事務ノ遲滯ヲ除クノ効用アリヤ否ハ知ラズト雖モ亦以テ其兵事ノ概畧ヲ知ルニ足ラン乎

明治二十年第五月　滋賀縣兵事課長田中知邦

現行兵事布令要錄

凡例

一此書ノ編纂ハ皇政復古卽チ慶應三年丁卯十月ニ起リ明治二十年五月十二日ニ至ル其間勅令閣令省令並ニ官省ノ告達及滋賀縣ノ布達諸達等事苟モ兵事ニ關涉シテ緊要ナル者ヲ採リ而シテ二十年五月十二日以前既ニ改廢消滅シテ現今無用ニ屬スル者ハ之ヲ刪リ全ク現行有用ノ者ヲ掇ヒ其改廢消滅ノ沿革ヲ註明ス是讀者檢討ノ勞ヲ省キ査閲ニ便セントスレハナリ

一一令中數多ノ事項ヲ包括シテ數部ニ關涉スル者ハ其主要ノ部ニ全文ヲ揭ケ其他關涉ノ部ニハ發令ノ年月日布令ノ番號等ヲ摘錄シテ本文ヲ畧シ勉テ繁冗ヲ避ク但本文ヲ畧シタル部門ニ於テハ某條ニ出ト註シテ本文ノ所在ヲ明ニス

一布令ハ勉メテ全文ヲ擧クト雖モ必要ニ非サル者ハ省約セシコアリ

是卷冊ノ浩瀚ヲ厭フカ故ナリ

一此書六章ニ分ツ又卷首ヨリ冊尾ニ至ル條ヲ序テ一貫ノ番號ヲ以テ綱紀シ務テ檢閲探索ニ便ニス

一每章中ニ事ノ端緒ヲ改ムレハ條ヲ隔テ、之ヲ分ツ端緒ハ一條ニシテ達ノ繁多ナルハ檢閲ニ便ナラサルヲ以テ達ノ異ナル每ニ尙ホ其起頭ニ白圈或ハ重括弧ヲ標記シ眉目ヲ明カニス

一令達中元此編ニ收ムルヲ要セサル者ニシテ特ニ參考照會ノ爲メ擧載スル片ハ（參考）ノ文字ヲ註ス

一後令ヲ以テ前令ノ全部或ハ一條一項ヲ改廢增減スル者ハ其條項ノ鼇頭ニ於テ改廢增減ノ年月日及布令ノ番號等ヲ註シ而シテ尙ホ原文ノ左傍ニ、、、、、ノ標點ヲ附シテ改廢消滅ノ符號トナシ以テ現行ノ條項ヲ一目瞭然ナラシム

一令達頒布ノ際筆者ノ誤字或ハ印刷ノ誤刊等アリテ他日之カ正誤ヲナス如キハ固ヨリ沿革ニ非サルヲ以テ其誤文ト正文トヲ交換シ之ヲ鼇頭ニ註明シ（正誤ノ通知書ナクシテ唯官報及公報ニ正誤ヲ示セシモノハ註明ヲ略ス）而シテ其正文ノ右傍ニ○○○○○ノ點ヲ附シ以テ正誤ノ符號トナス

一此布告ト彼布達ト沿革ニ關係ナキモ對照ヲ要スヘキ者ハ每件之ヲ鼇頭ニ註明シテ參觀ニ便ニス

一敍次中ニ重括弧（）ヲ施セル者ト鼇頭欄內ニ書記スル者ハ總テ編者ノ註文ニ係ル

一原文朱字ナルヲ墨書セシ者ハ必ス之ヲ註明ス

一引用書中此書ト彼書ト異同アル者ハ專ラ眞正ト認ムル者ニ據ル其正否ノ判然セサル者ハ之ヲ註明ス

一本編中改廢ノ如キ沿革ハ務メテ遺漏錯誤ナキヲ期スト雖モ布令事繁ニシテ條多シ加之後令ヲ以テ前令ヲ改廢スルノ外甲官廳ノ令達ニ依テ乙官廳ノ告達中自ラ消滅スル等アリ或ハ脫誤ナキヲ免カレ

難シ他日尚ホ撿閲ヲ加ヘ之ヲ訂正補塡スヘシ讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

一本編冊尾ノ附錄ニ布令索引ヲ設ケ其發令年月日ノ順序ニ隨ヒ之ヲ記載シ本令編入スル處ノ條目丁數ヲ附シ以テ其在ル所ヲ知ラシム

又求年齡月數表徵兵適齡年表各地里程表ヲ掲載シ執務上參考ニ便セシム

一明治二十年五月十三日以後ノ發布ニ係ル令達ハ將ニ每一年或ハ每二年ニ編輯シテ本編ニ繼續セントス

現行兵事布令要錄

總目

第壹章　總則　自第壹條至第六條
第貳章　徵兵　自第七條至第五拾壹條
第三章　在鄉兵　自第五拾六條至第六拾七條
第四章　召集及演習　自第六拾八條至第七拾九條
第五章　戒嚴及徵發　自第八拾條至第八拾六條
第六章　雜則　自第八拾七條至第百八拾九條

附錄
自明治三年至明治二十年勅令閣省令及官省告達索引
自明治五年至明治二十年滋賀縣布令索引
求年齡月數表

徵兵適齡年表
各地里程表

現行兵事布令要錄

索引

○第壹章　總則
第壹條　公文式　一丁
第貳條　布告布達府縣ヘ到達日數　四丁
第三條　滋賀縣布達告示等公式　七丁
第四條　鎮臺條例　七丁
第五條　法律規則中ニアル戰時ノ稱指定方　十六丁
第六條　七軍管疆域表　十七丁
○第貳章　徵兵
第七條　兵役ハ國ノ大事人民必ス服セサル可カラサル事　二十一丁
第八條　募兵ノ勅諭　二十一丁

第九條　徵兵令　二十五丁
第拾條　徵兵事務條例　四十五丁
第拾壹條　徵兵令中官立府縣立學校同等ノ學校ト認ムヘキモノ稟申方　百七十丁
第拾貳條　徵兵令中官立府縣立學校同等ニ認定セシ學校名　百七十一丁
第拾三條　農商務省所轄東京商船學校生徒徵集猶豫ノ事　百七十一丁
第拾四條　舊教導職タリシ者徵集猶豫ノ事　百七十二丁
第拾五條　軍用電信技手徵集猶豫ノ事　百七十三丁
第拾六條　賭博犯懲罰人徵兵ニ當リタル節徵集猶豫ノ事　百七十四丁
第拾七條　舊徵兵令ニ據リ免役ノ者新徵兵令發布後免役ノ名稱交互該當スル者徵否區分ノ事　百七十四丁
第拾八條　舊徵兵令ニ據リ免役又ハ徵集猶豫ノ者常備年期內ニ在テ其名稱ヲ罷メタル片屆出方　百七十五丁
第拾九條　士官學校教導團生徒合格者入校團以前ノ者徵兵取扱方　百七十六丁
第貳拾條　故ナク徵集ニ應セス若クハ徵集ニ漏レタル者處分方　百七十六丁
第貳拾壹條　徵兵令第二十一條ニ依リ徵集猶豫伺出方　百七十七丁
第貳拾貳條　徵兵事務上條例ニ明文ナキ者取計方　百七十七丁
第貳拾三條　免役若クハ徵集猶豫ノ嗣子承祖ノ孫

或ハ相續人ニシテ徵集猶豫ノ資格アル戶主トナリタル者取扱方　百七十八丁
第貳拾四條　徵兵事務條例第十六條但書ニ據リ生徒ヘ交付スヘキ在學證明書書式　百八十丁
第貳拾五條　警備隊兵卒入營前取扱方　百八十一丁
第貳拾六條　陸軍徵兵事務取扱手續　百八十二丁
第貳拾七條　地方徵兵醫員撰用方　百九十五丁
第貳拾八條　徵兵檢査ノ節一時限リ雇入醫師等解雇ノ時旅費支給ノ事　百九十八丁
第貳拾九條　滋賀縣徵兵事務取扱手續　百九十九丁
第三拾條　徵兵調査ニ要スル戶籍寫調製方　三百六十三丁
第三拾壹條　徵兵令中ニ掲示ノ各自屆書ニハ郡役所受付番號等ノ記入ヲ要セサル事　三百六十三丁

第三拾貳條　兵事課ヲ置カサル府縣ニ於テ條例ニ示セル兵事課長ノ職務擔任方　三百六十三丁
第三拾三條　徵兵壯丁名簿其他書類送達方並ニ進達期限ノ事　三百六十四丁
第三拾四條　每年徵集スヘキ新兵徵集人員　三百六十五丁
第三拾五條　陸軍醫官徵兵檢査規則　三百六十六丁
第三拾六條　徵兵免役出願ノ者等ヘ虛妄ノ診斷書ヲ與フ可カラサル事　三百七十六丁
第三拾七條　新兵入營ノ時ニ當リ疾病脫走等ヲ口實トナシ入營ノ期ニ後ル、者ナキ樣諭示ノ事　三百七十七丁
第三拾八條　送籍ノ節徵兵調査上要用ノ書類添付ノ事　三百七十八丁

第三拾九條　徵兵令中改正ニ付現役兵豫備兵後備兵服役年期起算方等ノ事　三百七十九丁
第四拾條　徵兵常備現役中傷痍疾病ニ罹リ一時服務ニ堪ヘサル者取扱方　三百八十一丁
第四拾壹條　現役輜重輸卒ニテ入營セサル者讀法式並ニ手帖渡方手續　三百八十二丁
第四拾貳條　現役輜重輸卒在鄉中取扱方　三百八十四丁
第四拾三條　輜重輸卒結婚ノ事　三百八十五丁
第四拾四條　輜重輸卒概則　三百八十六丁
第四拾五條　一年志願兵取扱規則　三百八十九丁
第四拾六條　徵兵看護卒取扱手續　三百九十三丁
第四拾七條　徵兵看馬卒取扱手續　三百九十七丁
第四拾八條　徵兵旅費定則　四百二丁

第四拾九條　徵兵免役ヲ圖リタル者ノ刑律　四百五丁
第五拾條　徵兵故ナク徵集ノ期ニ後ルヽ者ノ刑律　四百六丁
○第三章　在鄉兵（現役輜重輸卒ニ係ル布令ハ第貳章ニ載ス）
第五拾壹條　後備軍司令部條例　四百九丁
第五拾貳條　後備軍軀員條例　四百七十三丁
第五拾三條　豫備役後備軍軀員軍籍異動屆出手續　四百八十三丁
第五拾四條　歸休兵並ニ豫備後備兵身上異動及ヒ轉籍其他取扱方　四百八十六丁
第五拾五條　補充員並ニ豫備徵員身上異動屆及ヒ旅行願手續　四百八十七丁
第五拾六條　豫備後備兵勳等ニ叙セラレタル片屆出ノ事　四百八十七丁
第五拾七條　豫備後備軍服役中ノ者聟養子入夫其

他結婚出願手續　四百八十八丁
第五拾八條　後備軍ノ者願伺屆書進達員數ノ事　四百八十八丁
第五拾九條　後備軍司令部名稱等改稱ノ事　四百八十九丁
第六拾條　豫備軍軀員ヲ豫備役軀員ト改稱ノ事　四百八十九丁
第六拾壹條　近衛兵滿期鎮臺豫備後備役編入ノ者編入替ノ事　四百九十丁
第六拾貳條　近衛下士滿期等ニ依リ豫備役及ヒ後備軍軀員ニ入籍ノ者近衛軀員ニ定メラルヽノ事　四百九十丁
第六拾三條　徵兵令改正ニ付豫備後備兵服役ノ者服役年期ノ事　四百九十一丁
第六拾四條　軍隊手帖番號割符通行免狀等遞送費償却方　四百九十三丁

第六拾五條　常備兵歸休概則　四百九十六丁
第六拾六條　歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者賭博犯ノ處分ヲ受ケタルヲ通報方　五百五丁
第六拾七條　歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルヲ通報方　五百五丁
○第四章　召集及演習
第六拾八條　陸軍召集條例　五百七丁
第六拾九條　大坂鎮臺ニ於テ制定召集事務細則同附則中抄錄　六百十三丁
第七拾條　陸軍召集事務細則　六百二十七丁
第七拾壹條　陸軍召集條例中說明等ノ事　六百七十三丁
第七拾貳條　近衛後備軍諸隊編成ナキニ付同軀員

兵員心得方

第七拾三條　輜重輸卒召集調査手續　六百七十七丁

第七拾四條　豫備後備役服役者ニシテ公權停止中及ヒ刑事被告人トナリタル者等召集セサル事　六百七十八丁

第七拾五條　歸休兵並ニ豫備役後備軍軀員兵員召集旅費概則　六百八十二丁

第七拾六條　歸休兵並ニ豫備役後備軍軀員兵員臨時召集旅費金支出スヘキ金庫區域　六百八十三丁

第七拾七條　歸休兵並ニ豫備後備兵召集ノ時ニ當リ疾病脫走等ヲ口實トナシ召集ノ期ニ後ルヽ者ナキ樣諭示ノ事　六百八十五丁

第七拾八條　陸軍諸兵實地演習ノ爲メ行軍ノ節戶長並ニ人民心得方　六百八十六丁

第七拾九條　歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ若クハ召集ヲ免ルヽヿヲ圖ル者ノ刑律　六百八十六丁

○第五章　戒嚴及徵發

第八拾條　戒嚴令　六百八十九丁

第八拾壹條　徵發令　六百九十一丁

第八拾貳條　徵發事務條例　六百九十八丁

第八拾三條　徵發事務取扱手續　七百十三丁

第八拾四條　徵發物件表調査方梗概　七百六十九丁

第八拾五條　徵發物件輸送ニ係ル費用支辨方　八百十丁

第八拾六條　徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ怠納者處分方　八百十四丁

○第六章　雜則

第八拾七條　海軍志願兵徴募規則　八百十七丁

第八拾八條　陸軍ノ徽章アル服帽等私ニ着用並ニ賣買共差停ノ事　八百三十丁

第八拾九條　陸軍服役入營中故ナク歸村ノ者見當リ次第届出ヘキ事　八百三十二丁

第九拾條　海軍下士卒常備服役中身上異動届ノ事　八百三十二丁

第九拾壹條　陸軍武官結婚條例　八百三十三丁

第九拾貳條　海軍武官結婚條例　八百四十丁

第九拾三條　海軍下士卒ノ結婚届出ニ及ハサル事　八百四十四丁

第九拾四條　軍人及ヒ諸生徒處刑濟官途採用禁止ノ者養子分家其他身上異動ノ節届出ノ事　八百四十五丁

第九拾五條　憲兵卒服役中養子分家其他取扱方　八百四十五丁

第九拾六條　陸軍下士卒免役歸省願手續等ノ事　八百四十六丁

第九拾七條　海軍下士以下免役願等ノ事　八百四十八丁

第九拾八條　陸軍武官退職罷役ノ者身分取扱方　八百五十丁

第九拾九條　陸軍恩給又ハ扶助料ヲ受ケタル者改氏名ノ節取扱方　八百五十一丁

第百條　陸海軍恩給扶助料ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪等ノ節届出方　八百五十一丁

第百壹條　陸海軍恩給扶助料ヲ受クル者賭博犯處分規則ニ據リ懲罰ニ處セラレタル時届出方　八百五十二丁

第百貳條　陸海軍下士卒等旅行中死亡及ヒ重病飢餓ニ迫ル者等取扱方　八百五十四丁

第百三條　海軍下士以下旅行証票規則　八百五十七丁
第百四條　軍馬輸送ノ途中發病等ノ節取扱方　八百六十二丁
第百五條　滋賀縣尚武義會規約　八百六十六丁
第百六條　嫡子ヲ閣キ庶子ヲ立ルヲ得サル事　八百九十六丁
第百七條　家督相續順序並ニ尊屬親ニシテ卑屬親ノ家ヲ繼承セシ節稱呼方等ノ事　八百九十六丁
第百八條　廢嫡及ヒ婚姻離婚離緣等出願手續　八百九十九丁
第百九條　退隱セシ長男獨女子他ヘ養子分家等出願ヲ要スル事　九百丁
第百拾條　實子アル者養子ヲ以テ相續人トナシ子女アル寡婦夫ヲ迎ヘテ相續人トナス事　九百一丁
第百拾壹條　戶主死亡シ嗣子ナキ場合ニ於テ兄弟等ヲ閣キ他ノ者ヲシテ相續セシムルキノ手續　九百二丁
第百拾貳條　戶主家名ヲ廢シテ他ヘ入夫緣付シ或ハ養子女トナリ又ハ實家ヘ復籍ノ事　九百四丁
第百拾三條　無願廢嫡及ヒ不順序ノ相續ヲナシタル者處分方　九百四丁
第百拾四條　華士族死亡後相續人ナキ者追テ相續人ヲ定ムル期限ノ事　九百五丁
第百拾五條　單身戶主死亡又ハ除籍跡相續屆出期限ノ事　九百六丁
第百拾六條　家族ヲ有スル戶主死亡跡相續期限等ノ事　九百七丁
第百拾七條　婚姻又ハ養子女ノ取組等戶籍ニ登記セサル者其効ナキノ事　九百八丁

第百拾八條　常備兵役ノ竟ヘサル以前分家相成ラサル事　九百九丁
第百拾九條　年齢計算方　九百九丁
○附錄
自明治三年至明治二十年勅令閣省令及官省告達索引　九百十一丁
自明治五年至明治二十年滋賀縣布令索引　九百十九丁
求年齢月數表　九百二十六丁
徴兵適齢年表　九百二十八丁
各地里程表　九百三十一丁

現行兵事布令要錄誤刑訂正

正	誤
三丁四行目	幹シハ鈴シノ誤
九丁十二行目	行車ハ行軍ノ誤
十丁初行	卿ノ左傍ニ、標點ヲ脫ス
十三丁二行目	基ノ下ッノ字磨滅
十四丁五行目	軍藥ハ軍樂ノ誤
十五丁ノ一九行目	令ノ左傍ニ、標點ヲ脫ス
十五丁ノ九（十六行目十行目）十一行目	令ノ左傍ニ、標點ヲ脫ス
同丁（七行目十行目）十二行目	控訴ノ下ニアル裁判所ノ三字ノ左傍ニ、標點ヲ脫ス
同丁六行目齧頭	「十九年五月四日勅令第四十號裁判所官制ニ依テ控訴裁判所長ハ控訴院長ト改マリ同年七月十二日勅令第五十四號地

十八丁初行鼇頭	方官官制ニ依テ縣令ハ縣知事ト改マル」ノ註文ヲ脱ス
二十二丁六行目	「第四條ニ載スル十八年十月六日太政官第五十五號達參看スヘシ」ノ註文ヲ脱ス
二十三丁四行目	告諭ハ告諭ノ誤
二十五丁七行目	名前ハ名分ノ誤
二十六丁四行目割書	六行目(別冊)ノ次行「徵兵令」ノ三字ヲ脱ス
二十七丁十一行目	條ノ下ニ「例」ノ字ヲ脱ス
三十丁五行目割書	トコハコトノ顚倒
三十二丁初行割書	條ノ下例ノ字磨滅
四十一丁師管第一ノ區五行目九行目	五條ノ下ニ「第」ノ字ヲ脱ス
四十二丁師管第八ノ區初行	比ノ下企ノ字水内ノ上上ノ字磨滅
	能ノ下勢ノ字磨滅
四十五丁七行目	徵兵事務條例ノ上ニ「(別冊)」ノ二字ヲ脱ス
四十六丁十一行目	臨事ハ臨時ノ誤
五十五丁二行目	スシ可シハス可シノ誤
六十三丁九行目	定尺ナハ定尺ナノ誤
六十五丁十一行目	旋行ハ施行ノ誤
六十八丁九行目	兵徵令ハ徵兵令ノ顚倒
七十一丁七行目	者ノ下ニ「ハ」ノ字ヲ脱ス
七十三丁三行目五行目	廳シハ應シノ誤　添附ハ附添ノ顚倒
八十八丁鼇頭十三行目	改メハ改ムノ誤
九十二丁鼇頭六行目	閣ノ下ニ「令」ノ字ヲ脱ス
百五丁鼇頭三行目	達ハ告知ノ誤
百八丁二行目割書	院長ノ下病院ナキ地方ハノ七字磨滅
百十二丁鼇頭三行目	達ハ告知ノ誤

正	誤
百十四丁十二行目ノ次	空罫一行脱ス
百十五丁十行目何町ノ位置	「同」ノ字ヲ脱ス
百十九丁十四行目	四寸七尺ハ四尺七寸ノ顚倒
百二十一丁初行	異働ハ異動ノ誤
百二十三丁初行	異働名簿ハ壯丁異動名簿ノ誤
同丁九行目乃至十一行目	九行目ノ下ニアル同ハ十行目ニ置キ十行目ニアル同ハ十一行目ニ置クノ誤
百三十二丁日割表	上段下段共各空罫一行ヲ脱ス
百三十五丁三行目	集何男ハ某何男ノ誤
百三十九丁百四十一丁百四十三丁姓名ノ區	本人ノ下ニアル主戸ハ戸主ノ顚倒
百五十丁徵集猶豫人員ノ區	計ノ前ニ空罫一行脱ス
百五十一丁鼈頭三行目	遣ハ告知ノ誤
百五十五丁初行	軍ハ海ノ顚倒 海軍
百六十丁	計ノ前ニ空罫二行脱ス
百七十丁欄外丁數	百ノ下七十ノ二字磨滅
同丁鼈頭七行目	雌ハ雖ノ誤
百八十二丁二行目	取扱ノ手續ハ取扱手續ノ誤
百八十八丁四行目	名簿ニ從ヒハ名稱ニ從ヒノ誤
百九十丁割符中十四行目	第一豫ノ下備ノ字磨滅
百九十四丁十一行目	十八行目ハ十六行目ノ誤
同丁十三行目割書	役ノ下ニ「場」ノ字ヲ脱ス
百九十五丁四行目	其「年」ハ「其年」ノ顚倒
百九十七丁三行目	遂ケハ遂テノ誤
同丁鼈頭	百九十六丁鼈頭ニ接續スルノ誤
百九十八丁三行目割書	參看ハ參考ノ誤
二百丁鼈頭七行目	滋ハ滋ノ倒植

二百一丁四行目	親族ナノ下ニ「キ」ノ字ヲ脱ス
二百四丁八行目	處刑ノ下滿ノ字磨滅
同丁鼇頭二十行目	後以ハ以後ノ顚倒
二百六丁鼇頭十五行目	墾ハ縣ノ倒植
二百九丁七行目	在任ハ在住ノ誤
二百十二丁三行目	納稅額ハ納租額ノ誤
二百十八丁四行目	二其ハ二其ニノ顚倒
二百二十四丁十三行目	但ノ下書ノ字磨滅
二百二十六丁六行目割書	痢ノ下實ノ字布ノ下垤ノ字磨滅
二百三十五丁初行割書	營ノ下地ノ字ニノ下後備ノ二字磨滅
二百三十六丁八行目	入營ノ下延期願出ノ四字磨滅
同丁十一行目	單ノ下行ノ字磨滅
二百三十八丁初行	本縣第二部ノ右傍ニアル〇〇標點ハ衍

二百三十九丁八行目割書	第三ノ下期ノ字磨滅
二百四十一丁七行目	日數ノ下內ノ字磨滅
二百四十五丁三行目	以テノ下其ノ字主ハ戶ノ字磨滅
同丁四行目	要シノ下徵ノ字磨滅
二百五十四丁七行目	諸ノ下項ノ字磨滅
二百五十六丁六行目	月生ハ日生ノ誤
二百五十八丁五行目割書	ニテハニテノ誤
二百六十丁四行目	族ノ下職ノ字磨滅
二百七十四丁七行目割書	先代ノ下實ノ字磨滅
二百八十丁八行目	遺ノ下ニアル)ハ衍
二百八十二丁七行目割書	第一豫備徵ノ下員ノ字磨滅
二百八十四丁十行目	總職ハ總職ノ誤
二百八十五丁二行目	蘋職ノ蘋ノ字磨滅

正	誤
二百八十六丁五行目割書	商ハ商ノ誤
二百九十丁五行目割書	年月日ノ下近ノ字磨滅
二百九十一丁七行目割書	監ノ下視ノ字某ノ下閣ノ字磨滅
三百一丁九行目	(父兄)ハ父(兄)ノ誤
三百十九丁十行目割書	惱ノ右傍ニアル○ハ衍
三百二十一丁二行目割書	(伯父)ノ下(叔)ノ字磨滅
三百二十三丁十三行目割書	第二豫備ノ下ニ[徵]ノ字ヲ脫ス
三百二十五丁七行目十二行目	養ノ上ニ(ヲ)脫シ村ノ上下ニ()ヲ脫ス
三百五十二丁三行目	村ノ上下ニ()ヲ脫シ何番ノ下屋敷ノ二字磨滅
三百五十三丁三行目割書	本ノ下八ノ字磨滅
三百五十五丁九行目	四ノ下月ノ字磨滅
三百五十八丁鼇頭二行目	後ハ前ノ誤
三百五十九丁二行目	トキハノ下其ノ字磨滅
三百六十二丁四行目割書	職族業ハ職業ノ誤
三百六十七丁五行目	可カテハ可カラノ誤
三百六十八丁初行	月ハ目ノ誤
三百六十九丁十行目十一行目	潰ハ潰ノ誤　瘍ハ瘍ノ誤
三百七十一丁八行目	近視ノ下眼ノ字磨滅
三百七十二丁初行二行目八行目	瘍ハ瘍ノ誤
同丁十二行目十二行目	鎖ハ鎖ノ誤
三百七十四丁十三行目	瘍ハ瘍ノ誤
三百七十八丁八行目	一十ハ二十ノ誤
三百八十丁欄外丁數	一百ハ三百ノ誤
三百八十二丁九行目	服務ハ服役ノ誤
三百八十四丁七行目	郡區駐ノ下ニ[在]ノ字ヲ脫ス

三百八十七丁四行目	輸卒ニシテハ輸卒トシテノ誤
同丁十三行目鼇頭	「輜重隊長原本ノマヽ輜重輸卒組長ノ誤ナラン」ノ註文ヲ脱ス
三百九十三丁鼇頭	領布ハ頒布ノ誤　訂止ハ訂正ノ誤
四百七丁初行	五日ノ下ニ「ヲ」ノ字ヲ脱ス
四丁五行目	從テハ從テノ誤
四百九丁十一行目	所在ノ下ニ「ノ」ノ字ヲ脱ス
四百十丁十行目	記駐ハ記註ノ誤、寫ノ上書ノ字磨滅
四百十一丁十一行目	所ニノ下參ノ字磨滅フノ左傍ニヽ標點ヲ脱ス
四百十三丁十行目	記註ハ記註ノ誤
四百十五丁六行目	揚示ハ掲示ノ誤
四百十八丁初行	他軍官ハ他軍管ノ誤
四百二十二丁六行目	婚姻ノ下ニ「濟」ノ字ヲ脱ス
四百二十三丁初行割書	後ノ下備ノ字磨滅
同丁九行目	奉任ハ奉仕ノ誤
四百二十四丁十二行目	應ノ下ニ「セ」ノ字ヲ脱ス
四百二十五丁五行目	後備軍使府縣ノ左傍ニヽ標點ヲ脱ス
四百二十九丁六行目	在ノハ左ノノ誤
四百三十丁六行目	纒ノハ纒メノ誤
四百四十三丁七行目	後備軍ハ後備兵ノ誤
四百四十九丁師管第一ノ區	府(縣)駐在書ノ下記ノ字磨滅
四百五十二丁府縣ノ區上段	杤木ハ栃木ノ誤
同丁職員ノ區五行目九行目上段	郡在官ハ駐在官ノ誤記書ハ書記ノ顚倒
同丁府縣ノ區九行目下段	淡路ノ下全國ノ二字磨滅
同丁職員ノ區	在官ノ上註ノ字磨滅

正	誤
四百五十五丁六行目割書	筑ノ上都ノ字住ノ上大ノ字磨滅
四百五十六丁九行目十行目	下都賀寒川ノ左傍及ヒ上都賀ノ左傍ニ、標點ヲ脫ス
同丁十一行目割書	群馬ノ上西ノ字綠ノ下野ノ字磨滅
同丁鼇頭	朽ハ栃ノ誤
四百五十七丁十行目割書	東井磐ハ東磐井ノ顚倒
四百五十八丁府縣駐在所位置ノ區末行	濱松ノ左傍ニ、標點ヲ脫ス
四百五十九丁五行目十一行目割書	美咋ハ羽咋ノ誤　日河ハ日根ノ誤　大縣ノ左傍ニ、標點ヲ脫ス
四百六十丁郡區名ノ區十二行目	石ヨリ印南マテ及ヒ神東神西ノ左傍ニ、標點ヲ脫ス
四百六十一丁軍管ノ區	西鄉中町ト廣島トノ中間ニ縱線ヲ脫ス
四百六十六丁八行目割書	徒前ハ從前ノ誤
四百六十九丁鼇頭五行目	マ、潟ハマ、潟ノ誤
四百七十三丁六行目七行目	驅ハ軀ノ誤
四百七十五丁三行目	驅ハ軀ノ誤
四百七十六丁鼇頭五行目	加追ハ追加ノ顚倒
四百八十一丁十行目	後備軍ノ下軀ノ字磨滅
四百八十三丁十一行目	命拜ハ拜命ノ顚倒
四百八十八丁五行目	第百ノ下ニアル第ノ字衍
同丁鼇頭六行目	改稱スノ下ニ「其布達ハ」ノ四字ヲ脫ス
四百九十六丁十一行目	既則ハ概則ノ誤
同丁鼇頭三行目	雖モノ下ニ「歸休兵及ヒ」ノ五字ヲ脫ス
四百九十七丁證書三行目	厄(介)ハ(厄介)ノ誤
四百九十八丁八行目	前期ノノ下署ノ字磨滅
五百一丁七行目	後備ノ下ニ「軍ノ字ヲ脫ス

五百一丁八行目	官姓名殿ノ四字三字下ゲ
五百二丁十二行目	歸業ハ歸營ノ誤
五百十四丁八行目	凡ソハ凡ソノ誤定時ノ下演ノ字磨滅
五百十五丁五行目	受取ハ取扱ノ誤
五百二十二丁十二行目	撿定ハ撿察ノ誤
五百二十九丁九行目	引率ハ引率ノ誤
五百三十一丁十二行目	カルハカルノ誤
五百三十四丁五行目	後軍備ハ後備軍ノ顚倒
五百四十四丁七行目	監督部ヘハ監督部ニノ誤
五百四十八丁十三行目	鈌ノ右傍ニアル○ハ衍
五百五十二丁五行目	淨ハ鈌ノ倒植
五百五十三丁行頭	第四條ハ卷首ノ誤
五百六十一丁十行目	定規ハ規定ノ顚倒
五百六十八丁欄外丁數	五百六十六ハ五百六十八ノ誤
五百七十九丁師管ノ區	第ト二トノ中間ニアル縱線ハ衍
五百八十二丁日割表中	計ノ前ニ空罫一行ヲ脫ス
五百八十七丁名簿樣式欄外註書二行目	軀後備軍○ハ○後備軍軀ノ顚倒
五百八十八丁末行	空罫一行ヲ脫ス
五百九十一丁佐倉ノ下	二ノ上第ノ字磨滅
五百九十五丁末行	第一豫ノ下ニ「備」ノ字ヲ脫ス
六百五丁各町村名ノ區	何町村ノ肩ニ△ヲ脫ス
六百六丁註書十六行目	定ズヘシハ定ムヘシノ誤
六百十一丁欄外丁數ノ上	集召ハ召集ノ顚倒
六百十三丁七行目九行目	務事ハ事務ノ顚倒　召召ハ召集ノ誤
六百十七丁六行目割書	京都ノ下ニ「府」ノ字ヲ脫ス
六百十八丁十行目十一行目割書	近衞ノ下軀ノ字磨滅

六百十九丁三行目七行目割書	近衛ノ下軀ノ字豫備役ノ下軀ノ字磨滅
六百二十三丁八行目割書	結ハ詰ノ誤
六百三十一丁八行目	受領ヨハ受領シノ誤
六百三十四丁三行目	召集ノ發令ハ召集發令ノ誤
六百四十二丁五行目	兵員ノ下ニ「召集」ノ二字ヲ脱ス
六百四十六丁十一行目	後備役ノ上ニ（ヲ脱ス
同丁十二行目	發令ノ下ニ）ヲ脱ス
六百五十七丁充員名簿ノ下割書	徵兵ノ下令ノ字磨滅
六百六十一丁五行目事故ノ區	編休ハ歸休ノ誤
六百六十四丁五行目事故ノ區	役現ハ現役ノ顚倒
六百六十五丁五行目事故ノ區	豫備ノ下ニ「役」ノ字ヲ脱ス
六百六十七丁四行目事故ノ區	休歸ハ歸休ノ顚倒
六百六十八丁其四書式初行	軀ノ下ニ「員」ノ字ヲ脱ス
六百七十丁初行	召集ハ集合ノ誤
六百七十二丁六行目割書	後備役ヲ除クノ六字ノ左傍ニ丶標點ヲ脱ス
同丁六行目鼇頭	「第七十三條ニ載スル二十年五月十二日滋賀縣達第貳百三拾三號ニ依テ(後備役ヲ除ク)ノ割註消滅ス」ノ註文ヲ脱ス
六百七十四丁初行	豫備ノ下ニ「役」ノ字ヲ脱ス
六百七十七丁十行目鼇頭	「軀員ハ鎮台原本ノマヽ恐クハ軀員兵員ハ鎮台ノ誤ナラン」ノ註文ヲ脱ス
六百八十三丁十二行目割書	サリハナリノ誤
六百八十七丁十行目	限ノ下ラノ字磨滅
六百九十一丁七行目	時ノ右傍ニ○標點ヲ脱ス
六百九十二丁八行目	宣告ハ宣告ノ誤

六百九十七丁八行目（七百十六丁四行目 七百五十二丁十三行目）　鼇頭

戒嚴令ノ下ニ「中」ノ字ヲ脱ス

「十九年七月十二日勅令第五十四號地方官官制ニ依テ縣令ハ總テ縣知事ト改マル」ノ註文ヲ脱ス

七百八丁十三行目　揭ハ拘ノ誤

同丁鼇頭二行目　窮ハ第ノ誤

七百九丁四行目　熟議ノ下調ノ字磨滅

七百十丁十三行目割書　五十ノ下ニ「條」ノ字ヲ脱ス

七百十六丁十三行目（七百十六丁ヨリ七百五十二丁ニ至ル）　郡區戸長長ハ郡區長戸長ノ顚倒

七百二十丁鼇頭四行目　縣令ノ令ノ左傍ニヽ標點ヲ脱ス

七百二十四丁六行目　二十一號ハ二十一條ノ誤

七百二十五丁（初行二行目）　喰ノ下蘇ノ字磨滅

　　蒙ハ蘇ノ誤

七百二十九丁七行目割書　モノノハモノハノ誤

七百三十三丁三行目　查覆ハ查覈ノ誤

七百三十四丁割書　獲ハ穫ノ誤

七百四十九丁七行目割書　壹號テハ壹號ヲノ誤

七百五十一丁（八行目 九行目）　樽ノ下入ノ字磨滅

七百五十三丁四行目　但ノ下其ノ字磨滅

同丁表中三行目四段　戸ノ下數ノ字磨滅

同丁表中三行目末段　水車場ノ下病院ノ二字磨滅

七百五十九丁表中（日本形ノ區）　小回ノ下舟ノ字磨滅

七百六十一丁末行　自餘ノ下乘ノ字磨滅

七百六十六丁十一行目割書　撓鐵ノ撓ノ字磨滅

七百六十七丁（初行 三行目）割書　製鑵ハ製罐ノ誤　及ノ下嚬ノ字磨滅

七百六十七丁（七百六十七丁 七百六十八丁）四行目　最ノ下大ノ字磨滅

七百六十八丁初行四行目　溶。鐵ハ熔鐵ノ誤

七百六十九丁三行目　塲ノ下。丙ノ字磨滅

同丁四行目　轤轆ノ如キモノノ上下（）ヲ脫ス

七百七十丁十三行目　藁。ハ藁ノ誤

七百七十二丁十二行目　郡長ヨリノ下。賦ノ字磨滅

七百七十六丁十一行目割書　熟。ハ熟ノ誤

七百八十丁四行目六行目　五ノ字六ノ字ノ左傍ニ丶標點ヲ脫ス

七百八十一丁十二行目　十二ノ左傍ニ丶標點ヲ脫ス

七百八十八丁九行目　官ノ下。氏ノ字磨滅

七百九十一丁七行目　何ノ下。地ノ字磨滅

七百九十二丁十行目　喰。藁ノ藁。ノ字磨滅

七百九十三丁三行目　離。ハ離ノ誤

七百九十七丁三行目　毎郡ノ下。各ノ字磨滅

同丁三行目末段　二十二ノ下ニ「日」ノ字ヲ脫ス

七百九十九丁十一行目　麥ノ上大。ノ字磨滅

八百一丁備考初行　アラノ下ニ「サ」ノ字ヲ脫ス

同丁備考二行目　シテノ下。其。ノ字磨滅

同丁備考三行目　車ハノ下大。ノ字磨滅　者ノ下ニ「ヲ」ノ字ヲ脫ス

八百三丁備考初行　產ハノ下。其。ノ字收ノ下。穫。ノ字磨滅

八百九丁五行目　郵。船ノ郵。ノ字磨滅

八百十丁六行目　「シ其ハ」「其」ノ誤

同丁鼈頭二行目　遣。ハ達ノ誤

八百十四丁六行目　符合。ハ符號ノ誤

八百十八丁初行　兵令ノ上徵。ノ字磨滅

八百二十六丁二行目　鎮ノ下守。ノ字磨滅

八百二十六丁六行目割書　記入スハ記スノ誤
八百三十丁六行目十一行目割書　欽ハ缺ノ誤　離ハ離ノ誤
八百三十三丁欄頭十二行目　二十五號ハ十五號ノ誤
八百三十四丁八行目欄頭　「十八年十二月二十二日太政官第六十九號達ヲ以テ太政大臣各省卿ヲ廢シ更ニ諸大臣ヲ置ク」ノ註文ヲ脫ス
八百三十四丁八行目　卿ノ左傍ニ丶標點ヲ脫ス
八百三十五丁二行目　以下ニノ下ニ「在」ノ字ヲ脫ス
八百四十七丁十二行目割書　廢ハ癈ノ誤
八百四十九丁五行目割書　診ハ詮ノ誤
八百五十丁十一行目割書　官ノ名ノ字磨滅
八百五十四丁十一行目　等ヲノ下ニ「詳」ノ字ヲ脫ス
同丁欄頭九行目　遠ハ達ノ誤

八百五十八丁十二行目　艙ノ下ニアル舶ハ衍
八百六十三丁十一行目割書　結ハ詰ノ誤
八百七十三丁五行目　塲金ハ塲合ノ誤
八百七十六丁二行目　ヲノ上ニアルノハ衍
八百八十四丁十行目　會員ハ會長ノ誤
八百九十五丁七行目　戰時ハ戰死ノ誤
八百九十八丁三丁目　差ノ下ニ「許」ノ字ヲ脫ス
八百九十九丁五行目十一行目　願出ハ出願ノ顚倒　以上ハ以テノ誤
九百一丁十行目　後ノ下見ノ字磨滅
百五丁三行目　自ノ下ニ「今」ノ字ヲ脫ス
同丁十行目　華ノ下ニ「士」ノ字ヲ脫ス
九百六丁十一行目　制限ハ限制ノ顚倒
九百十一丁三行目割書　丁數ヲノ下揭ノ字磨滅

正　誤

九百十二丁十三行目三段割書　一十六ハ二十六ノ誤

九百十六丁初行六段割書　七八年ハ十八年ノ誤

同丁十行目三段割書　三十九ノ三ノ字磨滅

九百二十丁十行目二段割書　ドハ正ノ誤

九百二十一丁三行目六段割書　縣ハ條ノ誤

九百二十六丁四行目五行目　文化ノ文ノ字　文政ノ文ノ字磨滅

同丁欄外末行　一ヶ年ッヽノ下累ノ字磨滅

九百三十二丁二行目　木ノ本ハ木之本ノ誤

同丁十一行目十二行目割書　横濱ノ横ノ字磨滅

索引一丁三丁欄外丁數ノ上　素引ハ素引ノ誤

○正誤一丁初行刑ハ列ノ誤○七丁七行目リテハニテノ誤○十一丁十三行目註ハ駐ノ誤○十三丁十三行目軍ノ下ニ」ヲ脫ス○十四丁十二行目行ハ蹬ノ誤○十五丁十三行目割ノ下ニ書ノ字ヲ脫ス○十六丁七行目下ハ上ノ誤○二十三丁十行目百ノ上ニ九ノ字ヲ脫ス○二十四丁十行目下ノ素ハ索ノ誤

○本文百五十七丁二行目孚ハ茅ノ誤○九百二十八丁二行目二段國兵兵ハ國民兵ノ誤

現行兵事布令要錄

滋賀縣兵事課長田中知邦編纂

○第壹章　總則

第壹條　公文式

明治十九年二月二十四日勅令第一號(官報二月二十六日)

廢法律命令ノ格式ヲ制定スルノ必要ヲ認メ茲ニ公文式ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

勅令第壹號

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

公文式

第一　法律命令

第一條　法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス

法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル

第二條　法律勅令ハ內閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ內閣ニ提出シ總テ內閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ

第三條　法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ幹シ內閣總理大臣之ニ副署シ年月日ヲ記入ス其各省主任ノ事務ニ屬スルモノハ內閣總理大臣及主任大臣之ニ副署ス

第四條　內閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍內ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條　閣令ハ內閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス

第六條　閣令ハ年月日ヲ記入シ內閣總理大臣之ニ署名ス

第七條　省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス

第八條　各官廳一般ニ關スル規則ハ內閣總理大臣之ヲ定メ各廳處

務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム

第九條　內閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二　布告

第十條　凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但シ官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル（第拾四號布達ハ第二條ニ出）

第十一條　天災時變ニ依リ官報到達日數內ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條　北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條　法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又

明治六年六月十四日太政官第二百十三號布告摘要　諸布告施行期限府縣廳ヘ到達ノ上三十日間掲示ノ後ハ一般知得シタルモノトス府縣廳ヘ到達日限滋賀縣ハ布達ノ日ヨリ八日トス

明治七年四月十四日太政官第四十八號達摘要　布告布達施行期限府縣廳ヘ到達ノ翌日ヨリ管轄內ヘ觸示マテ謄寫刊刷等ノ日數ヲ二十日ト定メ其翌日ヨリ三十日ヲ過レハ

一般知得シタルモノトス

明治十六年五月二十六日太政官第十七號布告摘要

布告布達施行期限府縣判事ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス天災時變ニ因リ到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三　印璽

第十四條　國璽御璽ハ内大臣之ヲ尚藏ス

國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

第十五條　法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス

第十六條　國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス

四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

第十七條　勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

第貳條　布告布達府縣ヘ到達日數

○明治十六年五月二十六日太政官第拾四號布達内務卿副署

第拾七號布告ハ第一條ニ載スル十九年勅令第一號ニ依テ消滅ス故ニ略ス但滋賀縣布令類纂第二編第五條ニ出

今般第拾七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム

到達日數

京都府	四日	大阪府	四日
神奈川縣	即日	兵庫縣	四日
長崎縣	十一日	新潟縣	五日
埼玉縣	即日	群馬縣	即日
千葉縣	即日	茨城縣	二日
栃木縣	二日	三重縣	四日
愛知縣	三日	靜岡縣	二日
山梨縣	二日	滋賀縣	四日
岐阜縣	四日	長野縣	四日
宮城縣	五日	福島縣	四日

岩手縣　七日　青森縣　十日
山形縣　五日　秋田縣　八日
福井縣　八日　石川縣　七日
富山縣　六日　鳥取縣　七日
島根縣　八日　岡山縣　六日
廣島縣　七日　山口縣　八日
和歌山縣　六日　德島縣　六日
愛媛縣　九日　高知縣　八日
福岡縣　九日　大分縣　十一日
佐賀縣　十一日　熊本縣　十一日
宮崎縣　十一日　鹿兒島縣　十二日
但富山佐賀宮崎ノ三縣ハ開廳ノ日マテ舊管廳ノ到達日數ニ依ル
右布達候事

第三條　滋賀縣布達告示等公式

○明治十九年七月廿二日滋賀縣甲第百拾三號布達(七月廿二日發布)

來ル八月一日ヨリ滋賀縣公報ヲ發行シ布達告示等該公報ニ掲載スルヲ以テ公式ト相定メ從前ノ通頒布ス

右布達ス

第四條　鎮臺條例

○明治十八年五月十八日太政官第貳拾壹號達(陸軍省司法省府縣ヘ)

明治十二年九月第三拾三號達鎮臺條例左ノ通改正候條此旨相達候事

鎮臺條例

第一章　總則

第一條　日本帝國陸軍疆域ノ區畫ハ地勢ニ依リ人口ヲ量リ全國ヲ分テ七軍管トナシ一軍管ヲ分テ二師管トナシ各軍管ニ鎮臺ヲ置キ各師管ニ營所ヲ置キ以テ府縣ト相對峙シ其管內ノ靜謐ヲ保護

シ併テ守備ノ計畫軍隊ノ管轄壯丁ノ徵募ヲ掌トラシム

第二條　各軍管ニ常備後備ノ二軍ヲ置キ其常備兵ヲシテ鎭臺營所分營及ヒ要塞ニ屯駐セシム

第三條　凡ソ鎭臺ニハ司令官即チ師團長一名ヲ置キ中少將ヲ以テ之ニ任シ其軍管內ノ軍令ヲ董督シ軍政ヲ總理ス營所ニハ司令官一名ヲ置キ其地所在ノ旅團長ヲシテ之ヲ帶ハシメ鎭臺司令官ニ隸シ其師管內ノ事務ヲ區處ス但鎭臺所在地ノ師管ニハ營所ヲ置カス其事務ハ直チニ鎭臺ニ於テ執行ス

第四條　鎭臺司令官ノ下ニ參謀部副官傳令使文庫武庫營舍調馬各主管會計軍醫獸醫各部後備軍司令部衛戍軍法會議監獄署ヲ置キ又營所司令官ノ下ニ次官副官武庫營舍各主管會計部病院後備軍司令部衛戍軍法會議監獄署ヲ置キ以テ事務ヲ分掌セシム

第五條　鎭臺司令官即チ師團長ハ出師ノ日ニ方リ定制ノ節度ニ從ヒ師團ヲ編成シ所管監軍即チ軍團長ニ屬シ征戰ノ事ニ任ス其留後ノ事務ハ別ニ鎭臺司令官ヲ置キ之ヲ掌トラシム

第六條　營所司令官即チ旅團長征戰ノ事ニ任スル時其留後ノ事務ハ次官ヲシテ之ヲ代理セシム

第二章　鎭臺司令官ノ本務權限

第七條　鎭臺司令官職務ノ要領左ノ如シ

第一　軍隊ノ統率即チ諸兵隊ノ指揮節度軍紀風紀訓練等

第二　軍管內ノ事務即チ要塞衛戍ノ指揮出師ノ準備防守ノ計畫常備後備二軍ニ要スル武器彈藥器具材料被服陣具等ノ貯藏歸休兵及ヒ豫備後備軍編員兵員ノ管轄徵兵徵馬軍法衛生等

第八條　鎭臺司令官ハ進軍駐軍轉軍例外行軍例外演習等軍令ノ出納ニ關スルモノハ其所管監軍ノ指揮ニ屬シ進退黜陟轉換遷任會

十八年十二月二十二日太政官第六十九號達ヲ以テ太政大臣各省卿等ヲ廢シ更ニ總理大臣各省大臣ヲ置ク

十九年七月十二日勅令第五十四號地方官制ニ依テ縣令ハ總テ縣知事ト改マル

計及ヒ給與等軍政ニ關スルモノハ陸軍卿ノ區處ヲ受ク可シ

第九條　軍管內騷擾ノ警アルモ其事外國ニ關涉スルモノハ天皇宣戰ノ權ニ係ルヲ以テ漫リニ一卒ヲモ動カスヲ許サス但事火急ニシテ之ニ應セサルヲ得サル時ハ守勢ノ戰備ヲ取リ狀ヲ具シテ急速監軍ニ申報スヘシ

第十條　軍管內草賊ノ警アレハ先ツ情狀ヲ監軍ニ申報シテ其區處ヲ受ク可シ然レトモ事火急ニシテ兵力ヲ要シ其府知事縣令ヨリ出兵ヲ請求シタル時ハ之ニ應シ狀ヲ具シテ監軍ニ急報ス可シ

第十一條　前條ノ場合ニ於テ其事情測リ難キ時ハ其地方府知事縣令ト議シ參謀官ヲ派シ或ハ其地方營所若クハ要塞及ヒ衛戍ノ司令官ニ命シ情狀ヲ探偵セシメ其原由並ニ目下ノ動靜人員ノ多寡ヲ知悉シ要スル所ノ兵數ト施ス可キ策略ヲ具シテ監軍ニ申報シ仍ホ其事情ヲ比隣鎭臺ニ通報ス可シ

十九年七月十二日勅令第五十四號地方官制ニ依テ縣令ハ縣知事ト改マル

第十二條　軍管內ニ强盜奸民アリ憲兵及ヒ巡査ノ力之ヲ拿捕スル能ハスシテ援助ヲ請フ時ハ之ニ應シ適宜ノ兵員ヲ出スコトヲ得

第十三條　軍管內ニ於テ儀式慶典若クハ變災事故アリテ儀仗或ハ警護ノ爲メ府知事縣令ヨリ兵隊ヲ要スル事由ヲ具シ之ヲ請フ時ハ事情ヲ斟酌シ之ニ應スルコトヲ得

第十四條　前二條ニ擧ケタル事項ハ從事スルノ後報告スルヲ得ルト雖モ事緩ニシテ往復ノ日限アル時ハ先ツ監軍ニ申報シテ其區處ヲ受クルヲ正例トス

第十五條　臨時演習ノ爲メ三泊以上兵隊ヲ動カスハ上裁ニ係ルヲ以テ豫メ所管監軍ノ區處ヲ受ク可シ其二泊以下ニ止マルモノハ之ヲ專行スルコトヲ得

第十六條　要塞戍兵及ヒ衛戍部署ノ變換增減ニ關スルコトハ上裁ニ係ルヲ以テ所管監軍ノ區處ヲ受ク可シ其哨所及ヒ衛戍兵員ノ

變換增減等ハ之ヲ專行スルヲ得

第十七條　出師ノ準備ハ成規ニ從ヒ計畫ニ基ヅキ名簿ノ點檢人馬召集ノ手順ヨリ武器彈藥被服陣具糧秣材料ノ運輸貯藏ノ方法ニ至ルマテ平時ニ在テ常ニ各主務官ヲ戒飾シ一令ノ下神速ニ師團ヲ發シ後備軍ヲ擧クルニ於テ遺算ナカラシム可シ

第十八條　軍管內軍人軍屬ノ犯罪刑法ニ屬ス可キ者ハ法ニ照シ軍法會議ニ付シテ處斷セシム

第十九條　凡ソ近衛ノ兵隊ハ都督ノ前ニ非サレハ分列式ヲ行ハサルヲ正例トス然レトモ東京外ノ地方ニ屯在シ儀式慶典等ノ爲メ觀兵式ノ擧アルニ方リテハ鎭臺司令官ハ移牒シテ之ニ列セシムルコトヲ得

第二十條　近衛兵東京外ノ地方ニ屯在スル時警備其他地方ノ保安ニ關涉スルコトアリテ火急ヲ要スル時ハ鎭臺司令官ハ之ニ援助

ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條　近衛兵籍ニ屬スル歸休兵及ヒ豫備後備軍軍員兵員ノ地方ニ在ル者ハ鎭臺司令官ニ於テ之ヲ管轄スルコト管下ノ軍員兵員ニ異ナルコトナシ

第二十二條　軍管內ノ要塞司令官ハ鎭臺司令官ニ隸屬ス然レトモ特ニ要塞司令官ニ守備ノ全權ヲ委ネラレタル時ハ其指揮ニ屬スルコトナシ

第二十三條　軍管內布置ノ憲兵ハ鎭臺司令官ノ管轄ニ屬セス然レトモ之ヲシテ地方ノ事情ニ關スル緊要ノ事件ヲ報知セシメ又火急ノ事變ニ際シテハ命令ヲ下シ服事セシムルヲ得

第二十四條　鎭臺司令官ト軍管內ノ府知事縣令各裁判所長トハ互ニ事情ヲ通シ文武官民ノ間常ニ協和ヲ保ツヲ要ス

第二十五條　鎭臺司令官ハ地方ノ動靜ニ關スル事件ニ就キ府知事

十八年八月十九日太政官第百十八號達ヲ以テ第二十四條ヲ改正ス其達ハ後ニ出

十九年七月十二日勅令第五十四號地方官官制ニ依テ縣令ハ縣知事ト改マル

縣令ヨリ詳細ノ報告ヲ受クルノ權ヲ有ス

第二十六條　鎮臺司令官新タニ拜命シ初メテ任ニ赴ク時ハ左ノ禮款特典ヲ受ク可シ

第一　祝砲五發

第二　儀仗騎兵一中隊及ヒ軍藥隊若クハ歩兵一大隊及ヒ軍藥隊郊迎

第三　要塞司令官衛戍司令官市外出迎

第四　臺下ノ諸兵途次出迎

第五　將校及ヒ同等官正裝伺候

十八年八月十九日太政官第四十八號達ヲ以テ第二十七條ヲ改正ス其達ハ後ニ出

第二十七條　鎮臺司令官初メテ任ニ赴ク時鎮臺所在地ノ府知事縣令及ヒ各裁判所長トハ三日以内互ニ訪問シ其軍管内ノ府知事縣令及ヒ各裁判所長トハ三十日以内互ニ移文訪問ス可シ但其ニ官等卑キ者ヨリ先ツス可シ

十九年七月十二日勅令第五十四號地ノ官官制ニ依テ縣令ハ縣知事ト改マル

第三章　營所司令官ノ本務權限

第二十八條　營所司令官ハ一師管ニ關スル事務ヲ擔任シ師管内ノ靜謐ヲ保護ス故ニ其騷擾鎮壓ノ事ニ關シテハ所在ノ兵隊ニ令ヲ下スヲ得但其要塞ハ別命アルニ非サレハ之ヲ指揮スルノ限ニアラス

第二十九條　師管内草賊ノ警アレハ速ニ鎮臺司令官ニ報告シ且情狀ヲ探偵シ其原由幷ニ目下ノ動靜人數ノ多寡等ヲ詳悉シテ逐一ニ開具ス可シ

第三十條　地方ノ騷擾事火急ニシテ兵力ヲ要シ其府知事縣令ヨリ出兵ヲ請フニ方リ區處ヲ受クルノ暇ナク已ムヲ得サル時ハ之ニ應シ時機ヲ量リ管下ノ兵隊ヲシテ直ニ之ニ當ラシムルヲ得但其事情ヲ鎮臺司令官ニ急報ス可シ

第三十一條　地方ノ騷擾ニ方リ必要ト思考スル時ハ鎮臺司令官ニ

申報スルノ外直ニ本臺所管ノ監軍ニ申報シ且比隣ノ鎮臺營所ニモ亦之ヲ通報ス可シ

第三十二條 第十二條第十三條ノ場合ニ在テハ鎮臺司令官ノ區處ヲ受ク可シ然レトモ事急ニシテ其暇ナキ時ハ管下ノ兵隊ヲシテ其事ニ當ラシメ狀ヲ具シテ鎮臺司令官ニ急報ス可シ

第三十三條 出師ノ準備ハ定規ニ從ヒ遺算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬召集物品徵發運輸等ノ方法ヲ整ヘ又豫備兵後備兵ニ支給ス可キ武器彈藥被服陣具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保存ノ事ヲ擔任セシム

第三十四條 師管內ニ在ル下士及ヒ兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ地方官ノ通牒ヲ受理シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ナキモノハ鎮臺司令官ニ具申シテ區處ヲ受ク可シ

第三十五條 營所司令官其師管內ニ在テ第十八條第十九條第二十條第二十三條第二十四條第二十五條ノ場合ニ於テハ各條ニ準據シテ區處ス可シ

十八年八月十九日太政官第四十八號達ヲ以テ第三十六條ヲ追加ス其達ハ後ニ出

第一表

七軍管疆域表(本表ハ第六條ニ載スル表ト同一ニ付之ヲ略ス)

第二表

七軍管兵備表

軍管			第一			
師管			第一		第二	
常備軍	戰列隊	步兵	第一旅團 第一聯隊	第一旅團 第十五聯隊	第二旅團 第二聯隊	第二旅團 第三聯隊
		騎兵	第一聯隊			
		砲兵	第一聯隊			
		工兵	第一大隊			
		要塞砲兵				
		輜重兵	第一大隊			
	補充隊	步兵	一大隊	一大隊	一大隊	一大隊
		騎兵	一中隊			
		砲兵	一中隊			
		工兵	一中隊			
		輜重兵	一中隊			
後備軍		步兵	第一聯隊	第十五聯隊	第二聯隊	第三聯隊
		騎兵	第一聯隊			
		砲兵	第一聯隊			
		工兵	第一大隊			
		要塞砲兵				
		輜重兵	第一大隊			

第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八
第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
第四旅團 第十七聯隊	第五旅團 第十八聯隊	第六旅團 第十九聯隊	第七旅團 第二十聯隊	第八旅團 第二十一聯隊	第九旅團 第二十二聯隊	第十旅團 第二十三聯隊
第一聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第三聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第四聯隊 第十六聯隊	第六聯隊 第十八聯隊	第六聯隊 第十九聯隊	第七聯隊 第二十聯隊	第八聯隊 第二十一聯隊	第九聯隊 第二十二聯隊	第十聯隊 第二十三聯隊
第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第四聯隊 第十七聯隊	第五聯隊 第十八聯隊	第六聯隊 第十九聯隊	第七聯隊 第二十聯隊	第八聯隊 第二十一聯隊	第九聯隊 第二十二聯隊	第十聯隊 第二十三聯隊
第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	第八聯隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊

第五	第六	第七	計
第九	第十二		十二旅團 二十四聯隊
第九旅團 第二十一聯隊	第十一旅團 第二十三聯隊	第十二旅團 第二十四聯隊	
第一聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第二聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第三聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊 廿四大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一中隊 第六中隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一中隊 第六中隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一中隊 第六中隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一中隊 第六中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊 第二十四聯隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第十一聯隊 第二十一聯隊	第十三聯隊 第二十三聯隊	第十三聯隊 第二十四聯隊	
第一聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第二聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第三聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第十一聯隊 第二十一聯隊	第十三聯隊 第二十三聯隊	第十三聯隊 第二十四聯隊	
第一聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第二聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第三聯隊	第六聯隊	第六聯隊	第六聯隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一大隊	第一大隊	第一大隊	第一大隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊
第一中隊	第一中隊	第一中隊	第一中隊

第三表　諸兵配備表

軍管		旅團	聯隊	屯營	聯隊	聯隊	大隊	大隊	屯營
第一	歩兵	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	東京
第一	騎兵	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第一
第一	砲兵	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一
第一	工兵	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一
第一	輜重兵	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	東京

備考

一要塞砲兵ハ其編制未タ確定セサルヲ以テ姑ク之ヲ闕ク

一補充隊ノ隊號ハ其本隊ノ稱ニ從フヲ以テ略シテ示サス

一此外尙憲兵及ヒ函館砲隊アリト雖モ之ヲ省ク

一第七軍管ノ兵備ハ未タ確定セサルヲ以テ之ヲ記セス

軍管		旅團	聯隊	屯營	聯隊	聯隊	大隊	大隊	屯營
第二	歩兵	第二	第三	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十
第二	騎兵	第二	第二	第二	第二	第二	第三	第三	第三
第二	砲兵	第二	第二	第二	第二	第二	第三	第三	第四
第二	工兵	第二	第二	第二	第二	第二	第三	第三	第四
第二	輜重兵	第二	第二	第二	第二	第二	第三	第三	第四
第二	屯營	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
第三	歩兵	第三	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第四
第三	騎兵	第三	第三	第三	第三	第三	第四	第四	第四
第三	砲兵	第三	第三	第三	第三	第三	第四	第四	第四
第三	工兵	第三	第三	第三	第三	第三	第四	第四	第四
第三	輜重兵	第三	第三	第三	第三	第三	第四	第四	第四
第三	屯營	第四	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
第四	歩兵	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四
第四	騎兵	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四
第四	砲兵	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四
第四	工兵	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四
第四	輜重兵	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四
第四	屯營	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二

第五	第九 廣島	第十 松山	第十一 廣島	第廿一 廣島	第廿二 松山	第十二 丸龜	第五	第五	第五	第五 廣島
第六	第十一 熊本	第十二 小倉	第十三 熊本	第廿三 熊本	第十四 小倉	第廿四 福岡	第六	第六	第六	第六 熊本
第七										
備考	本表中空位ノ部分ハ追テ撰定ス可キモノトス									

十八年第二十一號達ハ前ニ出

○明治十八年八月十九日太政官第四拾八號達 陸軍省司法省 警視廳府縣へ

明治十八年五月第貳拾壹號達鎭臺條例中左ノ通改正追加候條此旨相達候事

○

第貳拾四條及ヒ第貳拾七條左ノ如ク改ム

第貳拾四條　鎭臺司令官ト軍管內ノ府知事縣令幷警視總監及ヒ大審院長控訴裁判所長檢事長始審裁判所長檢事ノ上席者トハ互ニ事情ヲ通シ文武官民ノ間常ニ協和ヲ保ツヲ要ス

第貳拾七條　鎭臺司令官初メテ任ニ赴ク時鎭臺所在地ノ府知事縣令幷警視總監及ヒ大審院長控訴裁判所長檢事長始審裁判所長檢事ノ上席者トハ三日以內互ニ訪問シ其軍管內ノ府知事縣令及ヒ控訴裁判所長檢事長幷始審裁判所長檢事ノ上席者トハ三十日以內互ニ移文訪問ス可シ但共ニ官等卑キ者ヨリ先ンス可シ

第三拾五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三拾六條　營所司令官初メテ任ニ赴ク時ハ其所屬ノ將校及ヒ同等官ヨリ正裝伺候ノ禮遇ヲ受ク可シ

○明治十八年十月六日太政官第五拾五號達（陸軍省司法省警視總廳府縣ヘ）

本年五月第貳拾壹號達鎮臺條例中七軍管轄域表分營ノ區畫中第一師管ノ下「高崎」ノ次ニ「小笠原島」第三師管ノ下「新發田」ノ次ニ「佐渡」第九師管ノ下「隱岐」第十一師管ノ下「大島」「沖繩」第十三師管ノ下「福岡」ノ次ニ「五島」「對馬」ヲ追加候條此旨相達候事

本年第二十一號達ハ前ニ出

第五條　法律規則中ニアル戰時ノ稱指定方

○明治十五年八月五日太政官第三十七號布告（陸軍卿海軍卿副署）

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ內亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス

右奉　勅旨布告候事

第六條　七軍管轄域表

○明治十七年二月六日滋賀縣告第八號告示

七軍管轄域左表ノ通改定相成候旨公達有之候條此旨告示候事

但軍管轄域ニ關シ左表ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ト心得ヘシ

七軍管疆域表（明治十七年一月三十一日太政官第拾三號達）

軍管	鎮臺	師管	營所	分營	陸海要塞	管國郡區
第一	東京	第一	東京	高崎		武藏十四區廿五郡 和摸 甲斐 伊豆 上野 信濃九郡
		第二	佐倉			武藏本所深川二區南北埼玉四郡 南北葛飾 安房 上總 下總 常陸 下野
第二	仙臺	第三	仙臺	新發田		陸前仙臺區名取柴田二郡 磐城 岩代 羽前 越後 佐渡
		第四	青森			陸前十二郡 陸中 陸奥 羽後
第三	名古屋	第五	名古屋	豐橋		尾張一區六郡 遠江 三河 駿河 信濃東西筑摩南北安曇上下伊奈諏訪七郡伊勢志摩紀伊南北牟婁二郡
		第六	金澤			尾張東西春日井丹羽三郡 美濃 飛驒 加賀 能登 越中 越前
第四	大坂	第七	大坂	大津		攝津東西南北四區東成住吉二郡 紀伊一區八郡 山城 大和 河內 和泉 近江 伊賀
		第八	姬路			攝津一區十郡 播磨 淡路 若狹 丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 美作 備前
第五	廣島	第九	廣島			安藝 備後 備中 出雲 石見 周防 長門 隱岐
		第十	松山	丸龜		阿波 讚岐 伊豫 土佐
第六	熊本	第十一	熊本			肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩
		第十二	小倉	福岡		豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬
第七						波島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千島

備考　本表中空位ノ部分ハ追テ撰定ス可キモノトス

十二年五月十六日滋賀縣甲第三十三號布達ヲ以テ廢ス

○第貳章　徵兵

第七條　兵役ハ國ノ大事人民必ズ服セザル可カラザル事

○明治十年二月十日滋賀縣乙第拾四號布達

兵役ハ國ノ大事人民必ズ服セザルベカラザルノ義務ニ候處人民未ダ全ク之ニ通曉セズ徵募ノ際動モスレバ遽ニ他人ノ養子トナリ又ハ廢家ノ苗跡ヲ冒シ甚シキハ自ラ其支躰ヲ折傷スル等ヲ以テ規避スル者往々有之是レガ爲メ遂ニ定員ノ不足ヲ生スルニ至リ不都合少ナカラズ候條猶一層精密ニ注意シ管下人民ヘモ丁寧說諭シ勉テ是等ノ規避ヲ防キ候樣可致旨公達有之候條心得違無之樣可致尤區戶長ニ於テハ懇ニ說諭シ右等ノ弊無之樣篤ク可致注意候事

右管內ヱ無洩布達スル者也

第八條　募兵ノ勅諭

○明治八年十一月五日太政官第百六拾貳號布告ノ內

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ丁壯ヲ募リ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セサルベカラス今本邦古昔ノ制ニ基キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ントス汝百官有司厚ク朕カ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

明治五年壬申十一月廿八日

徴兵告諭

我朝上古ノ制海内擧テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ工タリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武士ト稱シ抗顏坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ爾後軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頹弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜チ國ハ封建ノ勢ヲ爲シ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ至リ名前全ク泯沒シ其弊勝テ言フ可カラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歳ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劍ヲ脫スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスルノ道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニアラス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心力ヲ盡シ國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分

ヲ受サルヲ得ス是故ニ人々心力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人々其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル恐クハ之ヲ用フ可カラス故ニ今其長スル所ヲ取リ古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歲ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ鄉長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ依リ民庶ヲ說諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキモノ也

明治五年壬申十一月廿八日　太政官

（徵兵令ハ十二年十月二十七日太政官第四拾六號布告ヲ以テ全部改正復十六年十二月二十八日太政官第四拾六號布告ヲ以テ全部改正ニ付略ス但現行徵兵令ハ第九條ニ出）

第九條　徵兵令

○明治十六年十二月二十八日太政官第四拾六號布告（陸軍卿、海軍卿副署）

徵兵令別冊ノ通改定ス

右奉　勅旨布告候事

（別冊）

第一章　總則

第一條　全國ノ男子年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條　兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條　常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三個年ニシテ年齡滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四個年ニシ

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第八條ヘ一項追加其勅令ハ後ニ出

テ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條　後備兵役ハ五個年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條　國民兵役ハ年齢滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス（徵兵事務條例第百二十條參看）

第六條　各兵役ノ期限已ニ滿ツト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルヘシ

第七條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章　服役

第八條　陸軍現役兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ

海軍志願兵召募規則ハ第八十七條ニ出

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第十一條第十二條中一小學校ヲ除ク一ノ下ニ（及ヒ文部大臣ニ於テ認ムル之ト同等ノ學校）ノ十九字ヲ追加ス其勅令ハ後ニ出

調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵召募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニアラス

第九條　陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條　年齢二十歲ニ滿タスト雖モ滿十七歲以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得（徵兵事務條例第百二十一條第百二十二條參看）

第十一條　年齢滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム（徵兵事務條例第百二十三條參看）

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルトコアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ（徵兵事務條例第百三條乃至第百十條參看）

第十二條　現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學

校（小學校ヲ除ク）ノ歩兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期未タ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實査ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條　後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵員實査ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條　國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章　免除及ヒ猶豫

第十六條　兵役ヲ免除スルハ癈疾又ハ不具等ニシテ徴兵檢査規則

（徴兵事務條例第八十五條第百二十四條第百四十九條參看其條例ハ第十條ニ出）

（徴兵事務條例第百四十一條參看）

（徴兵事務條例第百四十九條參看）

ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル（徴兵檢査規則ハ第三拾五條ニ出）

第十七條　左ニ掲クル者ハ徴集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徴集ス

第一項　兄弟同時ニ徴集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人（徴兵事務條例第百二十七條第百二十五條乃至第百二十九條參看）

第二項　現役中死沒又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人（徴兵事務條例第百二十七條第百二十五條第百二十八條參看）

第三項　戸主年齡滿六十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項　戸主癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫（徴兵事務條例第百四十五條參看）

第五項　戸主

第十八條　左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徴集ヲ猶豫ス

第一項　教正ノ職ニ在ル者（徴兵事務條例第百三十四條參看）

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第十八條第二項中「小學校ヲ除ク」ノ下ニ「及ヒ文部大臣ニ於テ認タルノ同等ノ學校」ノ下ニ「及ヒ文部大臣ニ於テ認タルノ同等ノ學校」ノ十九字ヲ加フ其勅令ハ後ニ出

徴兵事務條例第百四十二條參看

第二項　官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タルモノ（徴兵事務條例第百三十四條參看）

第三項　官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒（徴兵事務條例第百三十三條第百三十四條參看）

第四項　陸海軍生徒海軍工夫（徴兵事務條例第百三十四條參看）

第五項　身幹未タ定尺ニ滿タザル者（徴兵事務條例第百四十二條參看）

第六項　疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項　學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項　禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項　公權停止中ノ者

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第十九條中「小學校ヲ除ク」ノ下第二十條第三項第

第十九條　官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以內徴集ヲ豫猶スル（徴兵事務條例第百三十四條第百三十五條第百四十九條參看）

五項中「學校」ノ下ニ「及ヒ文部大臣ニ於テ認タルノ同等ノ學校」ノ十九字ヲ加フ其勅令ハ後ニ出

第二十一條ニ載スル十七年十月十四日太政官第八十四號參看スヘシ

第二十條　左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ（徴兵事務條例第百三十四條參看）

第一項　官吏（判任以上及ヒ戶長補ヲ除ク）（徴兵事務條例第百三十六條參看）

第二項　教導職（試補ヲ除ク）

第三項　官立公立學校教員

第四項　府縣會議員

第五項　官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ソノ者

第二十一條　官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徴集ヲ猶豫スルコトアル可シ（徴兵事務條例第百三十四條參看）

第二十二條　左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シテ徴集ヲ猶豫スルノ

徴兵事務條例第百三十七條参看

徴兵事務條例第百三十九條参看

限ニ在ラス（徴兵事務條例第百四十五條百五十八條参看）

第一項　附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項　癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項　年齢六十歳未滿ノ戸主癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫（徴兵事務條例第百四十一條参看）

第四項　分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫（徴兵事務條例第百三十八條参看）

第五項　嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫（徴兵事務條例第百四十一條参看）

徴兵事務條例第百四十條第百四十一條参看

第六項　第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主（徴兵事務條例第百四十條参看）

第七項　年齢六十歳未滿ノ者癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項　嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項　戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主（徴兵事務條例第百四十二條参看）

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第二十三條中（九月）ヲ（四月）ト改ム其勅令ハ後ニ出

第二十三條　第十八條第一項第二項第三項第四項（陸海軍生徒ヲ除ク）第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自屆出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス（徵兵事務條例第百三十一條參看）

第四章　徵兵區及ヒ抽籤

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第二十四條中「一區ヲ設ク」ノ下ニ（又警備隊ヲ置キタル島嶼ハ各別ニ一區トス）ノ二十字ヲ加フ其勅令ハ後ニ出

第二十四條　徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク

軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ揭ク

第二十五條　各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條　抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査ヲ終リタル後兵役ニ適スル可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條　籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條　抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ヒ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ擧クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ氏名番號ヲ記

シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條　籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章　補充員及ヒ豫備徵員（徵兵事務條例第九十條乃至第百二條參看）

第三十條　補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限內現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

補充員ノ數ハ概ネ現役徵員五分ノ二ヨリ少ナカラサルモノトス

第三十一條　補充員ニシテ其期限內徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス（徵兵事務條例第百三十二條參看）

第三十二條　第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第

豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ニ爲サル迄後六個年間ニ該條ニ揭クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集スルトキ

第三十三條　豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章　雜則

第三十四條　毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歲ト爲ル者ハ其年九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戶主（本人戶主ナレハ自身以下ヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戶長ニ屆出可シ（徵兵事務條例第十六條乃至第十八條參看）

第三十五條　毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歲ト爲ル者ハ其年九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戶主ヨリ本籍ノ戶長

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第三十四條中（九月）ヲ（四月）ト改ム其勅令ハ後ニ出

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第三十五條中（九月一日

ニ屆出可シ若シ屆出シ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ屆出可シ但二十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ屆出ルニ及ハス（徴兵事務條例第十六條乃至第十八條參看）

第三十六條　第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ屆出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前ニ生シタルトキハ其年四月十日以後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ屆出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前ニ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ屆出可シ（徴兵事務條例第十六條乃至第十八條參看）

第三十七條　他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徴集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ屆書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

（四月一日）ヲ（翌年四月十日）ト改メ（十一月二十日）ヲ（十一月一日）ト改メ第三十六條中（其年ノ九月一日）ヲ（翌年四月一日）ト改メ（九月十六日以後翌年四月十日以前）ヲ（四月十六日以後十一月二十日以前）ト改メ第三十七條中（八月）ヲ（三月）ト改ム其勅令ハ後ニ出

第三十八條　現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條　疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ屆出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條　第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ檢査ヲ遂ケ他ノ徴員ニ先ヲ徴集ス可シ但戰時若シハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徴集ノ期ヲ待タス徴集ス

第四十一條　兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若シハ潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナシ檢査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ屆出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徴集シ又ハ翌年檢査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先ヲ抽籤ノ法ヲ用ヒス徴集ス

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第四十條中（其年九月一日）ヲ（翌年四月一日）ト改ム其勅令ハ後ニ出

徴兵事務條例第百四十八條參看

十九年十一月三十日勅令第七十三號ヲ以テ第四十二條中（四月二十日）ヲ（十二月一日）ト改ム其勅令ハ後ニ出

第四十二條　常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日（第四十一條ニ掲クル者ハ入營ノ當日）ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條　第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ屆出ヲ爲サヽル者及ヒ檢査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條　兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條　本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

軍管	師管	國名
第一	第一	武藏ノ內　麻布區　赤坂區　四谷區　牛込區　小石川區　本郷區　下谷區　芝區　日本橋區　京橋區　神田區　麴町區　淺草區　横濱區　荏原郡　南豐島郡　北豐島郡　南足立郡　北足立郡　東多摩郡　西多摩郡　南多摩郡　北多摩郡　久良岐郡　橘樹郡　都筑郡　新座郡　入間郡　高麗郡　比企郡　横見郡　秩父郡　兒玉郡　那珂郡　賀美郡　大里郡　埼玉郡　榛澤郡　相模　甲斐　伊豆　上野　信濃ノ內　南佐久郡　北佐久郡　小縣郡　埴科郡　更級郡　上高井郡　下高井郡　上水內郡　下水內郡
第一	第二	武藏ノ內　本所區　深川區　南葛飾郡　北葛飾郡　南埼玉郡　北埼玉郡　安房　上總　下總　常陸　下野
第二	第三	陸前ノ內　仙臺區　名取郡　柴田郡　磐城　岩代　羽前　越後　佐渡
第二	第四	陸前ノ內　宮城郡　黑川郡　加美郡　志田郡　玉造郡　遠田郡　栗原郡　登米郡　本吉郡　桃生郡　牡鹿郡　氣仙郡　陸中　陸奥　羽後
第三	第五	尾張ノ內　名古屋區　愛知郡　葉栗郡　中島郡　信濃ノ內　東筑摩郡　西筑摩郡　海東郡　海西郡　知多郡　南安曇郡　北安曇郡　上伊那郡　下伊那郡　諏訪郡　三河　遠江　駿河　伊勢　志摩　紀伊ノ內　南牟婁郡　北牟婁郡
第三	第六	尾張ノ內　東春日井郡　西春日井郡　丹羽郡　美濃　加賀　能登　越中　飛騨　越前

第四	第七	摂津ノ内 東区 西区 南区 北区 東成郡 住吉郡 海部郡 那賀郡 伊部郡 日高郡 東牟婁郡 西牟婁郡 有田郡 紀伊ノ内 和歌山区 名草郡 山城 大和 河内 和泉 近江 伊賀
	第八	摂津ノ内 神戸区 西成郡 島上郡 島下郡 豊島郡 能勢郡 八部郡 莵原郡 武庫郡 川辺郡 有馬郡 播磨 淡路 若狭 丹波 丹後 但馬 美作 備前 因幡 伯耆
第五	第九	安芸 備後 備中 出雲 石見 隠岐 周防 長門
	第十	阿波 讃岐 伊豫 土佐
第六	第十一	肥後 日向 大隅 薩摩 沖縄
	第十二	豊前 豊後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬
第七		渡島 後志 石狩 天塩 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千島

軍管ハ軍團ノ諸兵隊管ハ師團ノ諸兵ヲ徴集ス
徴兵ハ現今沖縄縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

○明治十九年十一月三十日勅令第七十三號（官報十二月一日）

朕徴兵令中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治十九年十一月三十日　内閣總理大臣伯爵伊藤博文
陸軍大臣伯爵大山巌
海軍大臣伯爵大山巌

勅令第七十三號

明治十六年十二月第四十六號布告徴兵令中左ノ通改正追加シ明治二十年四月一日ヨリ施行ス但第八條ニ追加ノ項ハ直ニ施行ス

第八條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ悉皆之ヲ警備隊ニ充テ該地内ニ於テ服役セシム但在營時間ハ一箇年以内トス

第十一條第十二條第十八條第二項第十九條中「小學校ヲ除ク」ノ下第二十條

徴兵令ハ前ニ出

第三項第五項中「學校」ノ下ニ各左ノ十九字ヲ加フ

及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校

第二十三條中「九月十六日」トアルヲ「四月十六日」ト改ム

第二十四條中「一區ヲ設ク」ノ下ニ「又警備隊ヲ置キタル島嶼ハ各別ニ一區ト爲ス」ノ二十字ヲ加フ

第三十四條中「九月一日」トアルヲ「四月一日」ト改ム

第三十五條中「九月一日」トアルヲ「四月一日」ト改ム

同條中「翌年四月十日」トアルヲ「十一月二十日」ト改ム

第三十六條中「其年ノ九月一日」トアルヲ「其年十一月二十一日以後十二月三十一日迄ニ係ル者ハ翌年四月一日」ト改ム

同條中「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月十六日以後十一月二十日以前」ト改ム

第三十七條中「八月十五日」トアルヲ「三月十五日」ト改ム

第四十條中「其年九月一日」トアルヲ「翌年四月一日」ト改ム

第四十二條中「四月二十日」トアルヲ「十二月一日」ト改ム

第拾條 徵兵事務條例第拾八號布達（陸軍卿、海軍卿副署）

○明治十七年七月十九日太政官第拾八號布達

徵兵事務條例別冊ノ通相定ム

右布達候事

徵兵事務條例

徵兵事務條例目錄

第一章 徵兵事務官及ヒ其職掌

第二章 徵兵檢査所及ヒ徵兵署

第三章 各自屆出

第四章 下調

第五章 徵員配當

第六章　檢査準備
第七章　檢査
第八章　抽籤準備
第九章　抽籤
第十章　簿冊表面調製
第十一章　現役兵編入順序
第十二章　新兵入營前ノ扱
第十三章　歸休歸省
第十四章　補充員及ビ豫備徴員
第十五章　一年志願兵
第十六章　臨事徴兵事務
第十七章　雜則
第十八章　附則

徴兵事務條例

第一章　徴兵事務官及ビ其職掌

第一條　徴兵事務官ハ左ノ如シ

一　鎮臺後備軍司令官
二　營所後備軍司令官
三　府縣駐在官
四　郡區駐在官
五　醫官
六　府知事縣令
七　府縣兵事課長
八　郡區長

第二條　鎮臺後備軍司令官ハ其軍管内徴兵ノ事務ヲ掌ル

第三條　營所後備軍司令官ハ其師管内徴兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵

徴集ノ際府縣徴兵署ヲ巡行シ兵種ノ撰定簿冊ノ審査兵役免除ノ處分ヲ爲シ徴集猶豫ニ係ル者ハ府知事縣令ト商議シ之ヲ裁決ス但鎮臺所在地ニハ營所後備軍司令官ヲ置カサルヲ以テ鎮臺後備軍司令官其職掌ヲ兼攝スルモノトス

第四條　府縣駐在官ハ其府縣内徴兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徴集ノ際醫官及ヒ府縣兵事課長ト共ニ徴兵檢査所ヲ巡行シ壯丁檢査ノ事ヲ掌ル

第五條　郡區駐在官ハ其郡區内徴兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徴集ノ際名簿調査ノ事ヲ掌ル

第六條　醫官ハ毎年新兵徴集ノ際一等軍醫以下軍醫試補以上ヲ以テ之ニ充ツ

一等軍醫ハ後備軍司令官ニ從ヒ府縣徴兵署ヲ巡行シ壯丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヲ檢査スルコトヲ掌ル

二等軍醫以下軍醫試補以上ハ府縣駐在官ト共ニ徴兵檢査所ヲ巡行ス其職掌一等軍醫ニ同シ

第七條　毎年新兵徴集ノ際前諸條官員ノ外海軍將校ヲシテ後備軍司令官ノ事務ニ參セシムルコトアル可シ

第八條　府知事縣令ハ管内徴兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徴集ノ際府縣徴兵署ニ於テ後備軍司令官ト商議シ徴集猶豫ノ裁決ヲ掌ル

第九條　府縣兵事課長ハ其府縣内徴兵ノ事務ヲ整理シ又毎年新兵徴集ノ際府縣駐在官ト共ニ徴兵檢査所ヲ巡行シ檢査ノ事務ヲ補助ス

第十條　郡區長ハ郡區内徴兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徴集ノ際名簿調製ノ事ヲ掌ル

第十一條　毎年新兵徴集ノ際師管徴兵區ノ諸記錄ハ後備軍司令部書記ヲシテ之ヲ掌ラシム

十七年十月二十二日陸軍省達甲第四十二號ヲ以テ地方醫員ノ儀ニ付附令アリ參看スベシ其達ハ第二十七條ニ出

十八年十二月五日陸軍省達甲第四十八號ヲ以テ事務執行上伺ニ付附令アリ參看スヘシ其達ハ第二十二條ニ出

檢査及ヒ抽籤ノ筆記ハ筆生ナシテ之ヲ掌ラシメ身體檢査ノ記錄ハ地方醫員ナシテ之ヲ掌ラシメ又身體檢査ノ補助ヲ爲サシムルコトアル可シ

醫員筆生ハ府知事縣令ノ撰ヲ以テ命スルモノトス

第十二條　徵集猶豫ノ事ニ係リ後備軍司令官ト府知事縣令ト商議整ハサルトキハ各其事由ヲ具シ陸軍卿ニ伺出可シ但後備軍司令官ハ其所管長官ヲ經由ス可シ

第二章　徵兵檢査所及ヒ徵兵署

第十三條　壯丁ノ檢査ヲ施行スル爲メ府縣管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ集合便宜ノ地ヲ撰ミ若干ノ徵兵檢査所ヲ設ク可シ

第十四條　各府縣徵兵區ニ於テ其事務ヲ整理スル爲メ毎年新兵徵集ノ期ニ先ヲ府縣廳所在ノ地又ハ管內便宜ノ地ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ但一府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ毎師管ニ一ノ

徵兵署ヲ設ク可シ

第十五條　徵兵檢査所及ヒ徵兵署ハ毎年新兵徵集中開クモノニシテ該事務終ルヲ之ヲ閉ス可シ

第三章　各自屆出

第十六條　徵兵令第三十四條ノ屆書ハ第一書式第三十五條ノ屆書ハ第二書式第三十六條ノ屆書ハ第三書式ニ據リ之ヲ認ノ戶長ニ差出ス可シ但第三十五條ノ屆書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

一　徵兵令第七條ニ當ル者ハ刑名宣告書寫

二　徵兵令第十七條第一項第二項ニ當ル者ハ事由ヲ記シタル詳細書第三項第五項ニ當ル者ハ第四書式ノ事由書及ヒ戶籍寫錄四項幷ニ同令第二十三條ノ諸項ニ當ル癈疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル爲メ徵集猶豫ニ關スル者ハ事由ヲ記シタル詳細書及ヒ第五書式ノ醫師診斷

書并ニ同郡區内現役兵ノ戸主タル者二人以上ノ保證書及
ヒ戸籍寫重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書寫

三　徵兵令第十八條第一項ニ當ル者ハ辭令書寫第二項ニ當ル
者ハ卒業證書寫及ヒ辭令書寫第三項第四項ニ當ル者ハ學
校長若クハ所屬長ノ證明書第七項ニ當ル者ハ地名校名及
ヒ修業ノ學科并ニ入校ノ年月日等記載ノ書及ヒ公使又ハ
領事ノ證明書第八項ニ當ル者ハ檢察官ノ證明書第九項ニ
當ル者ハ刑名宣告書寫

四　徵兵令第十九條ニ當ル者ハ學科并ニ等級ヲ記シタル學校
長又ハ所屬長ノ證明書

五　徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ決裁書ノ寫

第十七條　各自屆出ヲ爲スニ當リ戸主旅行又ハ外國寄留等ニテ屆
出ヲ爲ス能ハサルトキハ本人又ハ親族ノ者ヨリ屆出可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第十九條中（九月一）ヲ（四月一）ト改メ第二十條中（九月二十五日）ヲ（五月五日）ト改ム其閣令ハ條ニ出

第十八條　各自屆出ヲ終ルノ後抽籤ノ前他府縣ニ轉籍スル者ハ
三日以内ニ舊住地新地住雙方ノ戸長ニ屆出可シ

第四章　下士調査

第十九條　毎年九月一日以前戸長ハ各自屆出ヲ爲ス可キ者ヲシテ
徵兵令第三十四條第三十五條第三十六條ノ屆出ヲ怠ラシメサ
ル樣注意ス可シ

第二十條　戸長屆書ヲ領收セハ其町村ノ戸籍ニ照シ屆漏ノ者ナキ
ヤ否ヲ調査シ國民兵入籍者ト徵兵相當者トヲ分チ徵兵相當者ノ
各自姓名ノ頭ニ記載シタル箇條并ニ事由書或ハ證書等相違ナキ
ヤ否ヲ審査シ其屆書ニ署名捺印シ更ニ徵兵令第七條第十七條第
十八條第十九條第二十一條ニ當ル者ト檢査ヲ受ケ可キ者トヲ區
別シ國民兵入籍者ノ屆書ト共ニ書類目錄ヲ添ヘ毎年九月二十五
日迄ニ郡區長ニ差出ス可シ但徵兵令第三十五條但書ニ當ル者ハ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第二十三條中（十月十五日）ヲ（五月二十五日）ト改ム其閣令ハ後ニ出

戸長之ヲ調査シ其族職業氏名住所誕生年月日及ヒ隊號ヲ記シ本條ノ書類ト共ニ郡區長ニ差出ス可シ

第二十一條　戸長ハ檢査ヲ受ク可キ者ノ戸籍ニ基キ人別表（第六書式二）葉ヲ製シ各自屆書ト共ニ郡區長ニ差出ス可シ但人別表用紙ハ各自屆出ノ季節ニ先チ府縣廳ヨリ之ヲ下付ス可シ

第二十二條　各自屆出ノ後身上ノ異動ヲ屆出ルトキハ戸長之ヲ調査シ三日以内ニ郡區長ニ差出ス可シ

第二十三條　郡區長ハ戸長ヨリ差出ス所ノ各自屆書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヤヲ點檢シ然ル後壯丁名簿（第七書式）及ヒ壯丁異動名簿（第八書式）ヲ製シ卷末ニ署名押印シ各自屆書人別表其他諸書類ト共ニ十月十五日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ

第二十四條　郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿幷ニ諸書類ヲ點檢シ其郡區内ノ壯丁中遺漏或ハ差違ナキヤ否ヤ調査シ又

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第二十五條中（十月二十五日）ヲ（六月五日）ト改ム其閣令ハ後ニ出

人別表備考區書ニ記載スル件々ノ適否ヲ覈査シ訂正加書シ然ル後名簿ノ卷末ニ署名押印シ諸書類ト共ニ郡區長ニ返付スシ可シ

第二十五條　郡區長ハ郡區駐在官ヨリ返付スル所ノ名簿ニ各自屆書人別表其他諸書類ヲ添ヘ十月二十五日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ

第二十六條　壯丁名簿調製ノ際郡區長ハ人別表備考區書ニ記載スル件々ノ適否ヲ覈査シ訂正加書ス可シ

第二十七條　寄留地ニ於テ徵集ニ應シ又檢査ヲ受ケント欲スル者ハ該部内ノ者ト混セサル爲メ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ本籍地ニ於テハ他府縣ニ寄留ノ部ト題シ之ヲ別簿ニ作ル可シ

第二十八條　郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿整頓前第二十二條ニ據リ身上ノ異動屆書ヲ戸長ヨリ差出ストキハ之ヲ調査シ名簿ヲ訂正ス可シ若シ名簿整頓後ニ係ルトキハ府縣廳又ハ徵兵署或ハ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第三十條中（十月三十日）ヲ（六月十日）ト改メ第三十一條中（十一月十日）ヲ（六月二十日）ト改ム其閣令ハ後ニ出

檢査所ニ送ル可シ但徵兵令第二十四條ノ各自屆出後身上異動ノ屆書ハ三日以內ニ府縣廳ニ差出ス可シ

第二十九條　他府縣ニ籍ヲ轉スルノ異動屆書ハ郡區長ヨリ府縣廳ニ差出シ該廳ヨリ新住地府縣廳ニ通牒ス可シ

第三十條　郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿等ヲ府縣廳ニ差出シタル後國民兵入籍者ノ屆書ニ據リ國民兵名簿（第九書式）ヲ調製シ卷末ニ署名押印シ各自屆書ト共ニ十月三十日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ

第三十一條　郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿ヲ點檢シ其郡區內ノ國民兵入籍者ノ遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後卷末ニ署名押印シ郡區長ニ返付シ郡區長ハ各自屆書ト共ニ十一月十日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ

第五章　徵員配當

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第三十四條中（十一月一日）ヲ（六月十日）ト改ム其閣令ハ後ニ出

第三十二條　每年徵集ス可キ陸軍新兵ノ員數ハ陸軍卿之ヲ告示シ海軍新兵ノ員數ハ海軍卿之ヲ告示ス可シ

第三十三條　鎭臺司令官ハ其告示ニ基キ後備軍司令官ヨリ差出ス所ノ人員ヲ率トシ軍管徵集人員配當表（第十書式）ヲ作リ之ヲ陸軍卿ニ開申シ又管內府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ府縣廳ニ於テハ之ヲ管內ニ告示ス可シ

第六章　檢査準備

第三十四條　府縣廳ニ於テハ每年十一月一日ヨリ徵兵署ヲ開設シ府縣駐在官醫官府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生出頭シ徵兵檢査ノ準備ヲ爲ス可シ

第三十五條　府縣廳ニ於テハ各自屆書ハ別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審査シ戶籍帳ト照較シ遺漏又ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後徵兵署ニ送致ス可シ

第三十六條　府縣駐在官ハ府縣廳ヨリ徴兵署ニ送ル所ノ諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ調査シ又壯丁名簿壯丁異動名簿中徴集ニ應ス可キ者ノ總人員ヲ營所後備軍司令官ニ差出ス可シ但營所後備軍司令官ハ之ヲ一師管ニ取纏メ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第三十七條　府縣駐在官ハ前條書類調査ノ後府縣兵事課長ト商議シ管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ檢査所幷ニ巡回日割ヲ定メ其表面（第十一書式）ヲ製シ後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ府縣兵事課長ハ府知事縣令ニ之ヲ開申ス可シ

第三十八條　檢査所幷ニ巡回ノ日割已ニ定マルトキハ府縣廳ヨリ郡區長及ヒ戸長ニ達シ戸長ハ之ヲ其町村內檢査ヲ受ク可キ者ニ達シ置キ徴集ノ日時ニ至レハ壯丁ヲ引纏メ指定ノ場所ニ出頭ス可シ

第三十九條　府縣兵事課長ハ徴兵署ニ於テ筆生ヲシテ人別表ニ基

キ檢査表（第十二書式）ヲ製セシメ檢査ノ席ニ備ヘ置ク可シ但檢査表用紙ハ檢査ノ季節ニ先チ府縣廳自ラ之ヲ徴兵署ニ送ル可シ

第四十條　壯丁中疾病處刑及ハ逃亡失踪等ニテ檢査所ニ出頭セサル者アルトキハ戸主或ハ親族或者ヨリ逃亡失踪等ノ者ハ其事由書ニ戸長ノ奥書證印憲兵部若シハ警察署ノ證認ヲ受ケ疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書（第五書式）處刑中ノ者ハ刑名宣告書寫ヲ以テ郡區長ヲ經テ徴兵檢査所ニ屆出可シ但起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ其家ニ就キ之ヲ檢査シ若シハ他ノ檢査所ニ出頭セシムル等府縣駐在官府縣兵事課長商議シテ之ヲ處分ス可シ

第四十一條　徴兵檢査所ニ於テ領收スル所ノ諸願屆書ハ府縣駐在官府縣兵事課長ト商議シ之ヲ處分シ壯丁名簿壯丁異動名簿ニ訂正ヲ加ヘ若シ處分スルコト能ハサルモノ或ハ成規外ニ係ルモノ

ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

第七章　檢査

第四十二條　檢査ハ概ネ十一月十日ヨリ始メ第三十四條ニ掲クル所ノ諸員徵兵檢査所ヲ巡行シ其事務ヲ調理ス

第四十三條　戶長ヨリ檢査ノ達ヲ受クヘキ者ハ戶長ニ從ヒ指定ノ日時ニ其場所ニ出頭シ府縣駐在官府縣兵事課長又ハ面前ニ於テ身體ノ檢査ヲ受ク可シ

第四十四條　身體檢査ヲ爲ストキハ郡區駐在官郡區長列席シ郡區駐在官ハ壯丁名簿壯丁異動名簿中徵集ノ部ニ記載シタル順序ニ壯丁ヲ呼出シ醫官ハ徵兵檢査規則ニ據リ體格ヲ檢査シ合格ス者ハ更ニ其體格ノ等位ヲ區別ス不合格ノ者及ヒ身幹四尺九寸未滿ノ者ハ地方醫員ヲシテ之ヲ檢査表ニ記註セシメ醫官之ニ捺印シテ府縣駐在官ニ差出ス可シ但四尺九寸未滿ノ者及ヒ不合格者ノ骨

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第四十二條中（十一月十日）ヲ（六月二十日）ト改ム其閣令ハ後ニ出

相ハ檢査表ニ記註スルヲ要セス唯其尺度幷ニ骨相ノ部ニ主任ノ醫員捺印ス可シ

第四十五條　壯丁ノ身體檢査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ人別表ニ據リ本人ニ姓名住所族職業父兄ノ姓名等相違ナキヤ否ヤヲ尋問ス可シ

第四十六條　人別表調査ノ後府縣駐在官ハ檢査表ニ據リ筆生ヲシテ人別表中身幹尺度ノ區畫ニ各自ノ寸尺ヲ記註セシメ又疾病缺損又ハ身幹四尺九寸未滿ノ者ノ備考區畫ニハ何ノ事故ニ付徵集猶豫疾病缺損ニ付除役等其要領ヲ記註セシム可シ

第四十七條　壯丁中癲癇狂病白痴夜盲聾啞遺尿等ノ如キ疾病アリ其狀ヲ申告セントスル者ハ平素其病狀ヲ熟知スル近隣ノ戶主二人以上ノ證書ヲ添テ檢査所ニ申出可シ醫官ニ於テ相違ナシト認ムルトキハ之ニ奥書證印ス可シ若シ認定スルコト能ハサルトキ

ハ府縣駐在官ニ致ス可シ駐在官ハ之ヲ徴集ノ部ニ加フ可シ

第四十八條　壯丁ノ身體檢査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ合格又ハ不合格或ハ徴集猶豫ノ要領ヲ壯丁名簿壯丁異動名簿中ノ各自姓名ノ頭ニ記註ス可シ

第四十九條　身體檢査ヲ終リタル後郡區長ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ撰ハシメ其姓名住所ヲ府縣兵事課長ニ通牒ス可シ

第五十條　府縣駐在官ハ人別表備考區畫ヲ案シ訂正ヲ加フ可キモノハ之ヲ加ヘ醫官ニ謀リ身體最モ健全ニシテ近衛兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區畫ニ近衛何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

第五十一條　府縣駐在官ハ壯丁ノ職業ニ注意シ海軍兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區畫ニ海軍何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

第五十二條　府縣駐在官ハ合格者ノ人別表及ヒ檢査表ニ照シ各自ノ身材藝能職業ニ應シ豫メ兵種ヲ區別ス可シ

第五十三條　近衛諸兵ハ總テ品行方正ニシテ且體格最健全ナル者ヨリ之ヲ撰フ可シ其身幹砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵ハ五尺三寸以上ノ者タル可シ

第五十四條　鎮臺ニ屬スル諸兵ノ身幹砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵輜重兵ハ五尺三寸以上ノ者タル可シ若シ不足スルトキハ砲兵ハ五尺四寸以上歩兵騎兵工兵輜重兵ハ五尺二寸以上ノ者ヲ以テ之ニ充テ仍ホ不足スルトキハ臨時其定尺ヲ減スルコトアル可シ

第五十五條　陸軍雜卒又ハ職工トシテ徴集スル者ハ身幹五尺以上ニシテ雜卒又ハ職工ノ勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シト雖モ若シ所要ノ人員不足スルトキハ其體格五種兵ニ亞ク者又ハ身幹

四尺九寸以上ニシテ各其勤務ニ堪フ可キ者ヨリ之ヲ撰フ可シ

第五十六條　海軍兵ハ左ニ掲クル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ撰フ可シ其身幹水兵火夫ハ五尺以上ヲ定尺トス

第一項　航海學又ハ機關學卒業ノ者

第二項　西洋形船舶ニ乘組ノ者

第三項　瀛車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者

第四項　現ニ前諸項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上嘗テ之ニ從事セシ者

第五項　日本形五百石以上ノ船舶ニ乘組ノ者

第六項　日本形五百石未滿ノ船舶ニ乘組ノ者

第五十七條　海軍職工トシテ徵集スル者ハ身幹四尺九寸以上ニシテ其勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シ

第五十八條　兵種ノ區別已ニ竣レハ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ壯丁名簿壯丁異動名簿人別表檢査表其他一切ノ書類ヲ取纏メ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

第八章　抽籤準備

第五十九條　營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ノ報告ニ據リ一府縣ノ徵兵檢査事務完了ノ日時ヲ量リ巡回日割表（第十三書式）ヲ作リ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ開申シ又其巡行ス可キ府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ

第六十條　府縣廳ニ於テハ後備軍司令官ノ通牒ニ據リ其日時場所ヲ抽籤總代人ニ達シ出頭セシム可シ

第六十一條　抽籤旋行ニ先チ府縣兵事課長ハ徵兵署ニ於テ筆生ヲシテ籤丁名簿及ヒ籤札ヲ調製セシメ抽籤ノ席ニ備ヘ置キ又其府縣籤丁ノ總員及ヒ各兵種現役補充ノ徵員ヲ記載セシメ之ヲ抽籤

場ニ掲示ス可シ

第六十二條　籤丁名簿ハ籤丁ノ姓名住所ヲ記シ又籤札ハ左式ノ如ク厚紙ヲ凡ソ方三寸ニ切リ之ヲ四ツ折ニシテ中分ヲ拈リ合格者ノ數ニ應シ調製ス可シ

籤札

近衛（鎮臺）
（海軍）
何兵第何番

第六十三條　後備軍司令官ハ府縣巡行期日ニ至レハ徵兵署ヲ巡行シ壯丁名簿壯丁異動名簿其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審査ノ上檢印シ又徵集猶豫ニ關スル書類ハ府知事縣令ト商議シ成規ニ照シテ之ヲ處分スヘシ

第六十四條　後備軍司令官ハ抽籤施行ニ先ヲ徵兵令第四十一條ニ當ル先入兵同令第四十條ニ當ル入營延期ノ者及ヒ同令第十條ニ

當ル志願兵ヲ調査シ現役兵編入ノ順序ニ從ヒ現役番號ヲ附ス可シ

第九章　抽籤

第六十五條　抽籤ハ後備軍司令官府知事縣令府縣駐在官府縣兵事課長郡區長及ヒ郡區駐在官列席シ徵集人員配當表ニ基キ近衛諸兵鎮臺諸兵及ヒ海軍諸兵ヲ區別シ雜卒職工亦其種類ヲ分チ之ヲ行フ可シ

第六十六條　抽籤總代人ノ抽キタル籤ヲ確證スル爲メ籤簿掛ハ其籤ヲ總代人ヨリ領收シ籤丁名簿姓名ノ頭ニ貼付シ徵兵署ノ割印ヲ押シ然ル後總代人ニ返付ス可シ

第六十七條　抽籤施行ノ際後備軍司令官ハ書記ヲシテ人別表ニ番號ヲ記入シ又籤簿（第十四書式）ヲ調製セシム可シ

籤簿ハ兵種ヲ分チ當籤番號ノ順序ヲ以テ登記シ卷末ニ籤簿掛署名押印ス可シ但籤簿ハ別ニ二部ヲ作リ府縣廳ニ備ヘ置ク可シ

第六十八條　抽籤施行ノ後徵兵署ニ於テ本人別表ニ據リ番號割符（第十五書式）ヲ作リ籤簿ニ引合セ徵兵署ノ割印ヲ押シ籤札ニ照シ抽籤總代人ニ交付スヲ可シ但抽籤總代人ハ受領證書（第十六書式）ヲ差出スヲ可シ

第十章　簿冊表面調製

第六十九條　抽籤終ルノ後徵兵署ニ於テ左ノ名簿ヲ作ル可シ

一　除役名簿（徵兵令第七條及ヒ第十七書式ニ據リ登記ス）

二　徵集猶豫名簿（徵兵令第十六條ニ當ル者ノ部類ヲ分チ第十ル者ノ部類并ニ條目ヲ分チ第十八書式ニ據リ登記ス但別冊ニ登記ス）

三　先入兵不參名簿（徵兵令第十七條第十八條第十九條及ヒ第二十一條ニ當ル者ニシテ其年檢査ヲ受ケサル者ヲ第十九書式ニ據リ登記ス）

四　入營延期不參名簿（徵兵令第四十一條ニ當ル者ニシテ其年檢査ヲ受ケサル者ヲ第二十書式ニ據リ登記ス）

五　一年志願兵名簿

六　近衛現役兵名簿

七　鎮臺現役兵名簿

八　海軍現役兵名簿

九　近衛補充員名簿

十　鎮臺補充員名簿

十一　海軍補充員名簿

十二　現役兵檢査名簿

十三　補充員檢査名簿

（右九名簿ハ番號ノ順序ニ從ヒ兵種及ヒ部類ヲ分チ人別表及ヒ檢査表ヲ以テ編製ス）

第七十條　前條ニ掲クル名簿ハ各二部（檢査名簿ハ一部）ヲ作リ卷末ニ後備軍司令官府知事縣令署名押印シ一部ハ府縣廳ノ原簿トシ一部ハ

府縣徵兵表ト共ニ後備軍司令官之ヲ領收ス可シ

第七十一條　抽籤濟ルノ後徵兵署ニ於テハ府縣徵兵表（第二十ヲ作一書式）ヲ作リ又師管內徵兵事務全ク竣レハ後備軍司令部ニ於テ府縣徵兵表ヲ以テ師管徵兵表ヲ編製シ第六十九條ニ掲クル所ノ諸名簿幷ニ一師管ノ徵兵景況書及ヒ書類目錄ヲ添ヘ營所後備軍司令官ハ鎭臺後備軍司令官ヲ經テ鎭臺司令官ニ差出ス可シ

第七十二條　鎭臺司令官ハ前條ノ名簿諸書類領收ノ後師管徵兵表ヲ以テ軍管徵兵表ヲ編製シ徵兵景況書ヲ添ヘ五月十日迄ニ之ヲ陸軍省ニ送致シ近衛兵名簿海軍兵名簿ハ四月一日迄ニ直ニ近衛局或ハ海軍省ニ送致ス可シ

第七十三條　國民兵名簿ハ壯丁名簿調査ノ原簿タルヲ以テ之ヲ府縣廳ニ備ヘ置キ二十歲以下ノ者ノ年齡二十歲ニ至ル迄ハ身上ノ異動アル每ニ訂正ヲ加フ可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第七十二條中（五月十日）ヲ（十二月二十日）ト改メ（四月一日）ヲ（十一月十日）ト改ム其閣令ハ後ニ出

府縣廳ハ國民兵名簿ニ從ヒ每年十二月一日調ヲ以テ國民兵入員表（第二十二書式）ヲ製シ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ陸軍省及ヒ鎭臺ニ差出ス可シ

第十一章　現役兵編入順序

第七十四條　現役兵ニ編入ノ順序左ノ如シ

一　徵兵令第四十一條ニ當ル者
　年齡ノ順序又同年齡ノ者誕生月日ノ順序ニ從フ

二　徵兵令第四十條ニ當ル者
　（第一項ノ者ハ亞キ年齡ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生月日ノ順序ニ從フ）

三　徵兵令第十條ニ當ル者
　（第二項ノ者ニ亞キ年齡ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生月日ノ順序ニ從フ）

四　現役當籤ノ者
　（第三項ノ者ニ亞キ當籤番號ノ順序ニ從フ）

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第七十七條中（四月二十日ヨリ五月二十日迄）ヲ（十二月一

五　補充當籤ノ者

（本兵ニ在テハ師管徴兵區營籤番號ノ順序ニ從フ）

第七十五條　歩兵ノ補充員不足シ師管徴兵區内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ營所後備軍司令官ハ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ上申シ鎮臺司令官ハ他ノ師管ヨリ之ヲ充實シ又他兵ノ補充員不足シ軍管内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ鎮臺司令官ヨリ之ヲ陸軍省ニ開申スヘシ

第十二章　新兵入營前ノ扱

第七十六條　現役籤ニ當リタル者ハ入營ノ命ヲ待ツモノナルカ故五日間ニ往復スル能ハサル地ニ居ルヲ許サス

第七十七條　新兵ハ概ネ毎年四月二十日ヨリ五月二十日迄ニ入營セシム可シ

第七十八條　新兵入營ノ日時及ヒ場所ハ毎年近衛局鎮臺又ハ鎮守府ヨリ府縣廳ニ通牒シ府縣廳ハ速ニ其旨ヲ入營ス可キ者ニ達セシメ左ノ手續ヲ爲ス可シ

（ヨリ同月十日迄）ト改ム其閣令ハ後ニ出

一　鎮臺兵ハ其員數及ヒ入營地ニ廳シ最寄ヲ分ヲ所要ノ附添人ヲ附シ入營地ノ後備軍司令部ニ出頭セシム可シ

二　近衛兵及ヒ海軍兵ハ一府縣ニ一人若シハ二人ノ添附人ヲ附シ近衛局或ハ鎮守府ニ出頭セシム可シ

第七十九條　新兵入營地迄ノ旅費幷ニ附添人ノ旅費ハ定則ニ照準シ大藏省ヨリ支給ス可シ

第八十條　新兵入營ノ期ニ臨ミ父母ノ重病或ハ死沒等ノ故ヲ以テ入營延期ヲ願フ者ハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ事實ヲ詳記シ（其重病ハ醫師ノ診斷書第五ノ書式ヲ添ヘ）戸長郡區長奥書證印シ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ願出ルニ於テハ詮議ノ上十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第八十三條中（其年九月）ヲ（翌年四月）ト改ム其閣令ハ後ニ出

第八十一條　前條ノ延期ヲ許可セシトキハ府縣駐在官ハ其旨ヲ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ通牒ス可シ

第八十二條　入營延期ノ許可ヲ得タル者期滿ツレハ即日戸長ニ屆出戸長ハ直ニ出發セシタ其旨ヲ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ屆出可シ

第八十三條　新兵入營ノ期ニ臨ミ其身疾病犯罪等ニテ入營シ難キ旨戸長ニ屆出ルトキハ戸長奥書證印シ郡區長ヲ經テ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ屆出可シ其事故止ムトキ亦同シ尤モ疾病延ヒテ十五日以上ニ及フ者ハ最初屆出ノ日ヨリ三十日毎ニ屆出其年九月一日ニ至ルモ事故尚止マサル者ハ本人所持ノ番號割符ヲ添ヘ同月十五日限リ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第八十四條　新兵入營前甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戸寄留スル者ハ即日戸主ヨリ甲府縣戸長ニ屆出戸長ハ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ屆出可シ又乙府縣ニ到着スルトキハ前同樣ノ手續ヲ以テ番號割符ヲ添ヘ屆出可シ然ルトキハ甲府縣ノ當籤番號ヲ存シ他日入營ノ時ニ至リ乙府縣同番號ノ者ニ次テ入營セシム可シ但本人ヨリ轉籍又ハ全戸寄留ノ旨ヲ甲乙府縣ノ郡區駐在官ニ屆出可シ

第十三章　歸休歸省

第八十五條　徵兵令第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルハ抽籤以前該條項ニ當ル者ニ限ル但戸主若クハ父兄等死沒シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ癈疾不具等トナリ本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキハ詮議ノ上鄉里ニ歸休セシメ又ハ第一豫備徵員ニ編入スル抽籤後養子又ハ他家ノ相續人トナリ前項ノ事故ヲ生スルモ詮議ニ及ハス

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第八十六條中（シ近衛局鎮臺ハ陸軍省ニ鎮守府ハ海軍省ニ開申）ノ二十一字ヲ刪ル其閣令ハ後ニ出

第八十六條　前條但書ニ當ル者ハ戶主又ハ親族ノ者ヨリ其事由ヲ詳記シ戶籍寫若クハ刑名宣告書寫若クハ醫師診斷書第五書式幷ニ同郡區內現役兵ノ戶主タル者二人以上ヲシテ事實ヲ證セシメ戶長郡區長奥書證印ノ上郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ差出シ該官ハ後備軍司令官ヲ經テ近衛局鎮臺或ハ鎮守府ニ申牒シ近衛局鎮臺ハ陸軍省ニ鎮守府ハ海軍省ニ開申ス可シ但癈疾不具等ノ者ハ陸海軍醫官ヲシテ地方醫師診斷書ノ當否ヲ判定セシメ又ハ府縣駐在官及ヒ其地陸海軍醫官ヲシテ其家ニ就キ檢査セシムルコトアル可シ

第八十七條　前條ノ者生兵或ハ二等若水兵若クハ二等若火夫ノ卒業後ナレハ鄉里ニ歸休セシメ又卒業以前ナレハ之ヲ第一豫備徵員ニ編入ス

第八十八條　近衛兵ニシテ前條ニ據リ歸休セシメ又ハ第一豫備徵

十八年五月二十一日太政官第十號布達ヲ以テ第八十九條中（郡區長）ノ三字ヲ削除ス其布達ハ後ニ出

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第九十條中（九月）ヲ（四月）ト改メ（十月三十日ヨリ同月

員ニ編入スル者ハ近衛局ヨリ本籍所管ノ鎮臺ニ通牒シ該鎮臺ノ管理ニ屬ス可シ

第八十九條　現役兵在營在艦中父母ノ重病或ハ死亡等ニテ歸省ヲ願フトキハ其戶主又ハ親族ノ者ヨリ事實ヲ詳記シ（其重病ハ醫師ノ診斷書第五書式ヲ添）戶長郡區長ノ奥書證印ヲ以テ直ニ本人所屬ノ隊或ハ鎮守府ニ願出ルニ於テハ詮議ノ上往復ヲ除キ十四日以內ノ歸省ヲ許ス可シ尤モ旅費ハ自辨タル可シ但生兵二等若水兵二等若火夫ノ卒業ニ至ラス或ハ臨時演習觀兵ノ擧アルトキ又ハ航海中ハ本條ノ限ニ在ラス

第十四章　補充員及ヒ豫備徵員

第九十條　補充員ハ臨時補缺ヲ除クノ外鎮臺ニ於テ每年九月一日ノ現役兵缺員ニ應シ概ネ十月二十日ヨリ同月三十一日迄ニ入營スルモノトス但近衛兵海軍兵ニ在テハ近衛局海軍省ヨリ所要ノ

三十一日迄）ヲ（六月一日ヨリ同月十日迄）ト改ム其閣令ハ後ニ出

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第九十二條中（翌年徴集ノ期ニ當リ）ノ九字ヲ刪除ス其閣令ハ後ニ出

人員ヲ九月二十日迄ニ陸軍省ニ通牒シ陸軍省ハ之ヲ各軍管ニ賦課ス可シ

第九十一條　補充員入營ノ期ニ臨ミ疾病或ハ犯罪等ニテ入營スル能ハサル者ハ其事實ヲ詳記シ本人所持ノ番號割符ヲ添ヘ（疾病ハ醫師ノ診斷書第五書式ヲ添ヘ）速ニ戸長ニ屆出可シ戸長ハ奥書證印シ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ差出ス可シ該廳ニ於テハ其次番號ノ者ヨリ順次ニ繰上ケ徴集人員ヲ充實シ入營セシメ其旨ヲ府縣駐在官ニ通牒ス可シ

第九十二條　前條ノ事故ニ據リ入營セサル者ハ翌年徴集ノ期ニ當リ郡區長ニ於テ其名簿ヲ作リ府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徴兵署ニ送ル可シ

第九十三條　補充員ニシテ入營ヲ命セラレタル者其入營迄ノ扱ハ總テ現役當籤者入營前ニ異ナルコトナシ

第九十四條　補充員ハ十日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ出ルヲ許サス然レモ已ムヲ得サル事故ヲ生シ其日限ヲ越ユル地ニ出デンコトヲ欲スル者ハ事實幷ニ往先ヲ詳記シ戸長郡區長ノ奥書證印ヲ受ケ郡區駐在官ニ出願ス可シ

第九十五條　補充員ニシテ現役ヲ志願スル者ハ本人ノ願書ニ親族連署シ戸長郡區長ノ奥書證印ヲ受ケ郡區駐在官ニ願出ルトキハ詮議ノ上當籤番號ノ順序ニ拘ハラス補充員徴集同時之ヲ入營セシム可シ

第九十六條　補充員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ三日以内ニ戸長ニ屆出戸長郡區長奥書證印シ郡區駐在官ヲ經テ之ヲ府縣駐在官ニ屆出可シ

第九十七條　補充員ニシテ甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戸寄留スル者ハ第八十四條ノ例ニ據ル可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第九十八條中（リ主務省ニ開申ス可シ但主務省ニ於テハ詮議ノ上第一豫備徴員ニ編入ス可シ）ヲ（ル可シ）ト改ム其閣令ハ後ニ出

第九十八條　補充員ニシテ第八十五條ノ但書ニ當ル事故ヲ生シ徴集猶豫ヲ出願スル者ハ第八十六條ノ手續ニ據リ主務管ニ開申ス可シ但主務省ニ於テハ詮議ノ上第一豫備徴員ニ編入ス可シ

第九十九條　第一豫備徴員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ三日以内ニ戸長ニ屆出戸長ハ第九十六條ノ例ニ據リ之ヲ處分ス可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百一條中（四月二十日）ヲ（十二月一日）ト改メ（三十三歳）ヲ（三十二歳）ト改メ第百二條中（四月二十日）ヲ（十二月一日）ト改ム其閣令ハ後ニ出

第百條　第一豫備徴員ニシテ十五日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ旅行セントスル者ハ其往先ヲ詳記シ戸長郡區長ヲ經テ郡區駐在官ニ屆出テ然ル後旅行ス可シ但其屆書ニハ旅行中徴集ノ命アルトキハ直ニ之ヲ通牒ス可キ者ノ姓名住所ヲ記入ス可シ

第百一條　徴兵令第三十五條ニ據リ第二豫備徴員トナル者ハ其年四月二十日ニ至レハ別ニ命ナクシテ第二豫備徴員ニ編入セラレタル者ト心得可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百三條中（九月）ヲ（四月）ト改メ（十月）ヲ（五月）ト改ム其閣令ハ後ニ出

第三豫備徴員年齢三十三歳トナル年ノ四月二十日ニ至レハ別ニ命ナクシテ第國民兵役ニ編入セラレタル者ト心得可シ

第百三條　補充員服役年期ハ計算ハ現役兵ト同シク四月二十日ヨリ起算シ第二豫備徴員服役年期ノ計算ハ其編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス可シ但第八十七條ニ當リ第一豫備徴員トナル者ハ其入營年ノ四月二十日ヨリ起算ス

第百四條　志願者ハ當分ノ内各自ノ志望ニ由リ歩兵看護卒及ヒ看馬卒ノ内ニ就キ其種類ヲ撰ミ出願スルコトヲ得

第十五章　第二十年志願兵

第百三條　徴兵令第十二條ニ據リ一個年間現役ニ服セントスル者ハ毎年九月一日ヨリ同月十五日迄ニ其願書（第二十三號式）ヲ戸長ニ差出ス可シ戸長ハ之ニ奥書證印シ郡區長ヲ經テ十月一日限リ府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徴兵署ニ送ル可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百五條中（二月）ヲ（九月）ト改ム其閣令ハ後ニ出

第百五條　食料被服等ノ自辨金ハ一名金壹百圓ニシテ其現品ハ官ヨリ之ヲ支給ス但自辨金ハ三月一日迄ニ府縣廳ヲ經テ鎮臺ニ納ム可シ

徵兵令第十一條第二項ニ據リ若干月ニシテ歸休ヲ命シタル者ニハ殘金ヲ返付ス可シ

第百六條　志願兵入營前ノ扱ハ總テ現役當籤者ト異ナルコトナシ

入營後第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生セシトキハ第八十六條及ヒ第八十七條ヲ適用ス可シ

第百七條　步兵志願者ハ各軍管ニ之ヲ纏メ別段ノ敎育ヲ受ケシメ看護卒看馬卒志願者ハ各軍管ノ其部ニ屬シ敎育ヲ受ケシム可シ

第百八條　志願兵現役一個年ヲ終レハ六個年間像備役ニ服ス可シ

第百九條　志願兵中品行方正勤務勉勵ニシテ技藝ニ熟達シ下士ノ任ニ堪フ可キ者ニハ其適任證書ヲ付與ス可シ

又敎育上叛群ノ結果ヲ得タル者ハ豫備役下士ニ任シ士官適任證書ヲ付與ス可シ

第百十條　志願兵撿査所往復及ヒ入營歸鄉ノ旅費ハ總テ自辨トス

第十六章　臨時徵兵事務

第百十一號　戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ左ニ揭ク項目ノ順序ニ從ヒ徵集ス可シ

一　徵兵令第四十條ノ事故止ミタル者

二　補充員

三　第一豫備徵員

四　徵兵令第十七條ニ當リ徵集ヲ猶豫セシ者

五　第二豫備徵員

第百十二條　豫備徵員ハ年次ヲ逐ヒ服役日尙淺キ者ヨリ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集シ又徵兵令第十七條ニ當リ徵集ヲ猶豫セ

シ者ハ項目及ヒ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

第百十三條　第百十一條第一項第二項第三項ニ掲クル者ヲ徵集スルハ手續ハ平常補充員ヲ徵集スルニ同シ

第百十四條　第百十一條第四項第五項ニ掲クル者ヲ徵集スルトキハ府縣廳ニ於テ臨時徵兵署ヲ設ケ徵集ノ準備ヲ爲ス可シ

第百十五條　臨時徵兵署ニ於テハ檢査所幷ニ巡回日割ヲ定メ後備軍司令官及ヒ府知事縣令ニ開申ス可シ但府縣廳ニ於テハ戶長ヲシテ壯丁ヲ引纏メ指定ス日時場所ニ出頭セシム可シ

第百十六條　檢査所巡行ノ諸員ハ府縣駐在官屬官府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生トス但郡區長郡區駐在官ハ檢査所ニ出頭シ同所務ノ事務ヲ補助ス可シ

第百十七條　身體檢査竣ルノ後府縣駐在官ハ臨時徵兵署ニ於テ府知事縣令ト商議シ徵兵令第十七條ニ當ル者ハ各項目ニ番號ヲ分

チ第二豫備徵員ハ各年度ニ番號ヲ分チ抽籤ヲ施行ス可シ

第百十八條　一府縣ノ臨時徵兵事務全ク竣ル以後府縣駐在官ハ人別表檢査表ヲ點檢シ兵種及ヒ部類ヲ分チ人別表ハ臨時徵員明細名簿トシ檢査表ハ臨時徵員檢査名簿トシ籤簿ト共ニ營所後備軍司令官ニ差出シ該官ハ之ヲ一師管ニ取纏メ兵種ヲ分チ人員表ヲ製シ名簿ト共ニ鎭臺後備軍司令官ヲ經テ鎭臺司令官ニ差出シ鎭臺司令官ハ其軍管人員表ヲ製シ之ヲ陸軍省ニ開申ス可シ

第百十九條　臨時徵兵事務ハ本章ニ掲クル諸條ヲ除クノ外定期徵兵事務ニ準シ便宜處分ス可シ

第百二十條　國民兵ヲ徵集スルノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十七章　雜則

第百二十一條　徵兵令第十條ニ據リ現役志願ノ者ハ其願書（第二十四書式）ニ戶長郡區長ノ奥書證印ヲ受ケ徵兵檢査所ニ出願ス可シ但檢査

所ニ往復ノ旅費ハ合格者ニ限リ官給ス

第百二十二條　徴兵令第十七條第十八條第一項乃至第三項及ヒ第十九條ニ當ル者年齢滿二十七歳以下ニシテ現役ヲ志願スルトキハ前條ノ手續ヲ以テ徴兵檢査所ニ出願ス可シ但旅費ハ前條ニ同シ

第百二十三條　徴兵令第十一條及ヒ第十八條第二項ノ卒業證書ハ學期二個年以上ノ學校ニ於テ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル證書ニ限ル

第百二十四條　徴兵令第十七條ニ當ル者ヲ徴集スルトキハ其項目ノ順序ニ從フ可シ

第百二十五條　徴兵令第十七條第一項及ヒ第二項ノ兄弟ハ同戸籍中ノ實兄弟ニ限ル

第百二十六條　徴兵令第十七條第一項ノ兄弟同時徴集ニ當リ檢査ノ上共ニ合格スルトキハ情願ニ據リ一人ヲ猶豫ス可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百二十六條中（八月）ヲ（三月）ト改ム其閣令ハ後ニ出

前項ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ檢査ヲ受ケント欲スルトキハ各自屆出ヲ爲ス年ノ八月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戸長ニ願出本籍戸長ニ屆出可シ

第百二十七條　武官幷ニ陸海軍生徒ノ兄弟ハ徴兵令第十七條第一項第二項ニ據ルノ限ニ在ラス

第百二十八條　豫備兵後備兵召集中死沒又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄弟徴集ニ當ルトキハ徴兵令第十七條第二項ニ據リ徴集猶豫ヲ屬ス可シ

第百二十九條　徴兵令第十七條第一項ノ現役兵ノ兄或ハ弟一人ハ徴集ヲ猶豫スヘシト雖モ現役中ノ者其年四月現役滿期或ハ脫走中又ハ歸營償勤中ナルトキハ徴集ニ應ス可シ

第百三十條　徴兵令第十七條第十八條第十九條及第二十一條ニ當リタル者七個年間ニ其資格ヲ失ヒタルトキハ徴集スト雖モ更ニ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百二十九條中（四月）ノ二字ヲ刪ル其閣令ハ後ニ出

三十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百三十一條中（九月ヲ除ク四月ヲ改メ（翌年四月十一日以後九月十五日迄ニチ（其年十一月二十一日以後翌年四月十五日迄ニチ）ト改メ其閣令ハ後ニ出

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百三

徵兵令第十七條及ヒ第十八條第七項ニ當ル者并ニ陸海軍生徒トナル者ハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百三十一條　各自屆出後即チ九月十六日以後ニ於テ徵兵令第十八條第一項第二項第三項第四項（陸海軍生徒ヲ除ク）第十九條及ヒ第二十一條ニ當ルモ徵集猶豫ノ限リニ在ラスト雖モ翌年四月十一日以後九月十五日迄ニチ（其年十一月二十一日以後翌年四月十五日迄ニチ）ト改メ其閣令ハ後ニ出

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百三

第百三十三條　徵兵令第十八條第三項第四項第十九條課程ヲ卒リタル者ハ同令第三十一條ニ據リ第二豫備徵員ニ編入ス可キヲ以テ徵兵檢査時限ニ至レハ郡區長ヨリ其學校ニ通牒シ最寄ノ徵兵檢査所ニ出頭セシメ身體ノ檢査ヲ受ケシム可シ

第百三十三條　徵兵令第十八條第三項ニ掲ケタル官立大學校ニ準スル官立學校ハ左ノ如シ

一　王都大學校

十三條中第一項以下ヲ改ム其閣令ハ後ニ出

二十年三月九日閣令第三號

第二　農商務省駒場札幌農學校

第三　司法省法學校

第百三十四條　徵兵令第十八條第三項第四項第十九條第二十條第五項ヲ除ク及ヒ第二十一條ニ當ル者其事故止ミタルトキハ學校長若クハ所屬長ヨリ本人所管ノ府縣廳ニ通牒ス可シ

第百三十五條　徵兵令第十九條ニ掲クル修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒トハ該校ニ於テ其課程ヲ卒リタル者ノミニ限ラス他ノ學校ヨリ大學ハ一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ニ編入セラレタル者亦該條ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百三十六條　官吏（別任及ヒ以上）及ヒ戶長ハ徵兵令第二十條第二項ニ據リ召集ヲ猶豫スト雖モ準官吏ハ該條項ニ據リ召集ヲ猶豫スルノ限リニ在ラス

第百三十七條　附籍戶主及ヒ其嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵兵令第二十

ヲ以テ第百三十七條中（九月）ヲ（四月）ト改ム其開令ハ後ニ出

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百三十九條中（九月）ヲ（四月）ト改ム其開令ハ後ニ出

第二條第一項ニ據リ徵集スト雖モ其戶主徵兵各自屆出期限即チ九月十五日以前ニ一戶ヲ設立スルトキハ徵兵令第十七條第三項及ヒ第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ但分家シ又ハ絕家若クハ廢家ヲ再興シタル戶主ニシテ更ニ附籍シタル後別ニ一戶ヲ設立スルモ本條ノ限リニ在ラス

第百三十八條　徵兵令第二十二條第四項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ其戶主分家又ハ絕家廢家再興後癈疾不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百三十九條　徵兵令第二十二條第二項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ各自屆出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ前嗣子承祖ノ孫若クハ相續人（同戶籍中ノ者）癈疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百四十條中（一月）ヲ（十二月）ト改メ（九月）ヲ（四月）ト改メ第百四十一條中（一月）ヲ（十二月）ト改ム其開令ハ後ニ出

集猶豫ニ屬ス可シ

第百四十條　徵兵令第二十二條第三項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其第六項ニ據リ戶主トナリタル者及ヒ其第七項ノ戶主ハ徵集スト雖モ其徵集ニ應スヘキ年ノ一月迄ニ前戶主（同戶籍中ノ者也）ニ六十歲ニ至ルカ又各自屆出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ癈疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百四十一條　徵兵令第十七條第三項第三十二條第三項及ヒ第七項ニ揭クル六十歲又同令第二十二條第五項及ヒ第九項ニ揭クル五個年ハ徵集ニ應スヘキ年ノ一月ヲ以テ分界ト爲ス可シ

第百四十二條　徵兵令第十八條第五項第六項ニ當ル者ハ事故ノ存スル間徵集猶豫ニ屬スト雖モ每年檢査所ニ出頭シ身體ノ檢査ヲ受ク可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百四十六條中（八月）ヲ（三月）ト改ム其間ハ後ニ出

第百四十三條　徵兵檢査呼出又ハ入營ニ際スルトキハ民事訴訟ノ爲メ裁判所ノ召喚アリト雖モ檢査又ハ入營日時ヲ延期セス

第百四十四條　戰時若クハ事變ニ際シテハ第八十條第八十五條但書及ヒ第八十九條ニ當ル事故生ストモ詮議ニ及ハス

第百四十五條　徵兵令第十七條第四項及ヒ同令第二十二條ノ諸項ニ當ル癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ハ徵兵檢査所ニ呼出シ檢査ス可シ但起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ府縣駐在官醫官及ヒ府縣兵事課長其家ニ就キ檢査スルコトアル可シ

第百四十六條　前條ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ檢査ヲ受ケント欲スルトキハ適齡者ノ各自屆出ヲ爲ス年ノ八月末五日迄ニ其旨ヲ寄留地戶長ニ願出本籍戶長ニ屆出可シ

第百四十七條　徵兵署閉鎖後徵兵令第三十六條ニ當ル者ハ翌年之ヲ徵集ス可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ第百四十八條中（九月）ヲ（翌年四月）ト改メ（トキハ翌年）ヲ（モノハ）ト改ム其間令ハ後ニ出

第百四十八條　徵兵令第四十一條ニ當ル者其年疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營スルコト能ハスシテ九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ翌年更ニ檢査ヲ遂ケ仍ホ先入兵トシテ徵集ス可シ

第百四十九條　徵兵令第四十二條ニ當ル者ニシテ爾後同令第十七條第十八條（第四項第五項第六項第八項第九項ヲ除ク）及ヒ第十九條ニ該當スト雖モ徵集猶豫ノ限リニ在ラス

第百五十條　徵兵既行ノ地在籍ノ者ニシテ沖繩縣及ヒ北海道ノ內徵兵未行ノ地ニ轉籍シ更ニ他ノ府縣ニ寄留スル者ハ寄留地ニ於テ各自屆出ヲ爲シ其本籍ノ者ト同シク徵集ニ應ス可シ

徵兵未行ノ地ニ單身寄留ノ者ハ本籍地ニ歸リ徵集ニ應ス可シト雖モ全戶寄留ノ者ハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百五十一條　徵兵令第三十四條第三十五條第三十六條第三十九

條ノ屆出ヲ怠リ又ハ兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナク撿査所ニ參會セザル者アルトキハ普通治罪法ノ手續ニ據リ之ヲ告發ス可シ

第百五十二條　徵兵署又ハ徵兵撿査所ニ差出ス可キ願書ハ三通屆書ハ二通徵兵署宛ニテ差出ス可シ

第十八章　附則

第百五十三條　明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿三十歲トナリタル者ニシテ舊徵兵令第二十八條ニ當リ國民軍ノ外免役ニ屬スル者新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七年撿査時限內ニ在テ名稱ヲ罷メタルトキハ更ニ徵集ニ應セシメ其第七年撿査時限ヲ經過スル者ハ舊徵兵令ニテ處分セシ儘之ヲ名簿ニ據ヘ置ク可シ

第百五十四條　明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿二十歲トナリタル者ニシテ舊徵兵令第二十九條第三十條第三十一條及ヒ第三十四條ニ當リ平時免役又ハ徵集猶豫ニ屬スル者新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七年撿査時限內ニ在テ名稱ヲ罷メタルトキハ更ニ徵集ニ應セシメ第七年撿査時限ヲ經過スル者ハ新徵兵令第三十二條ニ據リ第二豫備徵員ト爲ス可シ

第百五十五條　現今豫備兵服役中ノ者ハ最初豫備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ四個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム但定期ニ在ラスシテ臨時豫備軍ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

第百五十六條　現今後備兵服役中ノ者ハ最初後備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ五個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵

役ニ服セシム但定期ニ在ラスシテ臨時後備軍ニ編入セラルル者ハ其編入セラルル日ヨリ起算シ五個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

第百五十七條　舊徴兵令第三十六條ニ據リ第一豫備徴兵服役中ニ於テ年齢三十七歳ニ經過セシ者及已ニ現ニ第二豫備徴兵服役中ノ者ハ新徴兵令第三十二條ニ據リ第三豫備徴員ト爲スヲ可トス

第百五十八條　新徴兵令第三十三條ノ諸項ニ當ルヤト雖モ其事柄ノ明治六年二月廿日即チ徴兵令創定以前ニ係ル者ハ該條項ヲ以テ處分スルノ限ニ在ラス

第百五十九條　明治十六年第十二月迄ニ年齢滿三十歳ニ達シタル者ニシテ舊徴兵令第六十條第六十一條及ビ舊徴兵事務條例第百六十條ノ屆出ヲ怠リタル者明治十七年九月十五日迄ニ屆出サル者ハ新徴兵令第四十三條ニ據リ處分スヲ可シ

十七年七月二十一日内閣書記官達ヲ以テ第百五十九條中（第十二月ヲ）（十二月）ト訂正ニ十年三月九日閣令第三號ヲ以テ本條全部改正其閣令等ハ共ニ後ニ出

第一書式　國民兵入籍屆書

國民兵入籍御屆

郡(區)町(村)番地住

族及職業　姓　名

年　月　日生

右私或ハ私何男(養嗣子)(承祖ノ孫等)ニテ本年御月十七歳ニ相成候間此段及御屆候也

郡(區)町(村)番地住

族及職業

戸主　姓　名　印

年　月　日生

年　月　日

郡(區)町(村)戸長

[illegible]姓[illegible]名[illegible]殿[illegible]

前書之通相違無之候也

年　月　日

戸長　姓　名印

第二書式　徴兵適齢届書

徴兵適齢御届

郡(區)町(村)番地住
族及職業
姓　名
年　月　日生

除役及徴集猶豫ニ當ルヘキ事故アル者ハ茲ニ記載ス例ヘハ

重懲役十年(父六十五歳子)(祖父七十歳曾祖ノ孫)

右私或ハ私何男(弟孫甥又ハ附籍等)ニテ本年何月二十歳ニ相成候間此段及御届候也

郡(區)町(村)番地住
族及職業
戸主　姓　名印
年　月　日生

年　月　日

郡(區)町(村)戸長
姓　名　殿

前書之通相違無之候也

年　月　日

戸長　姓　名　印

第三六書式　徴兵異動届書

郡(區)町(村)番地住
族及職業
姓　名
年　月　日生

徴兵異動御届

右明治何年徴兵適齢ノトキ兄某現役中(郡村番地何某養嗣子等)ニテ徴集猶豫相成候處年月日現役満期ニ相成(該家離縁私何男弟甥附籍ニ復シ)候間此段及御届候也

郡(區)町(村)番地住
族及職業
戸主　姓　名　印
年　月　日生

年　月　日

郡(區)町(村)戸長
姓　名　殿

前書之通相違無之候也

年　月　日

戸長

戸主　姓　名　印

[illegible]

[illegible]

本人戸主ナシハ本人ヨリ事由ヲ詳記シ届出可シ

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ（來何年一月）ヲ（本年十二月）ト改ム其閣令ハ後ニ出

第四書式　其一　事由書

事由書

郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓　名

年　月　日生

右先代父(母)某儀ハ來何年一月六十何歳ト相成且祖父亡某ノ死跡ヲ繼キタル戸主ニテ私儀ハ何年月日同人ノ隱居跡ヲ繼キタル戸主ニ相違無御座候也

郡(區)町(村)番地住

族及職業

戸主　姓　名　印

年　月　日生

年　月　日

郡(區)町(村)戸長

姓　名　殿

前書之通相違無之候也

年　月　日

戸長

姓　名　印

此書式ハ一例ヲ示スモノナレハ實際ニ就キ調査ニ要スル事由ヲ記詳スヘキモノトス其二書式亦同シ

十七年七月二十一日内閣書記官達ヲ以テ（養實）ヲ（養實）ト訂正二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ（來何年一月）ヲ（本年十二月）ト改ム其閣令ハ後ニ出

第四書式　其二　事由書

事由書

郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓　名

年　月　日生

右ハ私養實嗣子ニ候處私儀來何年一月六十何歳何ヶ月ト相成且先代養實父(母)亡某ノ死跡ヲ繼キタル戸主ニ相違無御座候也

郡(區)町(村)番地住

族及職業

戸主　姓　名　印

年　月　日生

年　月　日

郡(區)町(村)戸長

姓　名　殿

兵事　徴兵

前書之通相違無之候也

年　月　日

戸長　姓　名　印

第五書式　其一　醫師診斷書

診斷書

府(縣)郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓　名

年　月　日生

右ハ天資强實或ハ何々ニシテ嘗テ病ニ罹リシコトナシ或ハ何病ニ罹ル云々何年何月何日來何症ヲ發シ爾來何々ノ症候(現症候ヲ精密ニ記載スヘシ)アルヲ以テ何症ト診斷シ何々劑ヲ與ヘ何々ノ法ヲ施シ已ニ何週ヲ經過セシ處何々症增加スルヲ由リ或ハ何々ノ症ヲ遺スニ由リ遂ニ危篤ニ陷ル者或ハ所詮治癒ス可ラサル者ト及診斷候也

年　月　日

府(縣)郡(區)町(村)番地住

主任醫　姓　名　印

右診斷書調査候處不都合無之候也

年　月　日

府(縣)病院長　姓　名　印

先天不具ノ者ニシテ治療ヲ加ヘサル者ハ其景況部分ヲ明細ニ記載スヘシ病院長ニ於テ醫師ノ診斷書上其病症及治療法等審按シ成規ニ適合スルモノト見認ルトキハ奥書押印スヘシ（其二書式亦倣之）

第五書式　其二　醫師診斷書

診斷書

府(縣)郡(區)町(村)番地住

族及職業　姓　名

年　月　日生

右ハ何年何月何日山林樵伐ノ際或ハ何々ノ時何部ヲ打撲シ何骨ヲ折斷ス或ハ何ノ部ニ何々ノ傷ヲ被リ即日何術及何繃帶ヲ施シ或ハ何々法ヲ施シ何々劑ヲ與ヘ何々ノ症ハ治癒スルヲ得ルモ何々症ヲ遺シ或ハ何々ノ症ヲ繼發スルニ由リ所詮治癒ス可ラサル者或ハ爾後何ケ月ヲ經サレハ治癒セサル者ト及診斷候也

年　月　日

府(縣)郡(區)町(村)番地住

主任醫　姓　名　印

右診斷書調査候處不都合無之候也

年　月　日

府(縣)病院長（病院ナキ地方ハ内務省開業免狀所持醫）　姓　名　印

第六書式　徵兵人別表

明治何年徵兵人

府(縣)國郡(區)町(村)産
國郡(區)町(村)番地住　族及職業

身幹尺度

兵種番號

何某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)（本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ）

姓名　何　某

族職業　名　誕生年齢　誕生年月日

祖父	何　某	年月日	何年何月	氏神　國郡(區)町(村)何神社
祖母	何某女某	同	同	宗門　同　何宗何寺
父	何　某	同	同	
母	何某女某	同	同	
養父	何　某	同	同	
養母	何某女某	同	同	
妻	何年何月何日婚姻　何府縣族何某長(次)女某	同	同	

備

一　曾テ刑罰ヲ受ケシコトナシ或ハ年月日何罰何々ニ處セラル
一　戸主或ハ本人家屋ヲ有ス
一　地租何圓ヲ納ム

十七年七月二十四日內閣書記官達ヲ以テ初項中（記スルニ及ハス）ヲ（記スル位置ニ併記スヘシ）ト訂正ス其達ハ後ニ出

二十年三月九日閣令第三號ヲ以テ（一月）ヲ（十二月）ト改ム其閣令ハ後ニ出

別表

倒子	長男何某	同	
兄弟	兄何某	同	
姉妹	妹某	同	
男子	二男何某	同	
女子	長女某	同	

○產國ト現今ノ管轄府縣ノ異ナル者ハ表首國郡區町村產ト記スル上ニ其府縣ヲ加ヘ又寄留地ノ徵集ニ應スル者ハ府縣及ヒ國郡區町村住ト記スル位置ニ寄留地ノ府縣國郡區町村番地ヲ記シテ其下ニ寄留ト書シ而シテ產國及ヒ原籍住地ノ府縣國郡區町村番地（產國ハ產地ヲ除ク）ヲ表首國郡區町村產ト記ス位置ニ併記スヘシ

○族職業ノ區畫ニハ華士族何（平民何）ト記ス但女ハ戶主ニ非サレハ族職業ヲ記スルニ及ハス

○父母亡スル者ハ名ノ下ニ亡ト記シ族職業誕生年齡等ノ區畫ニハ○ヲ記スヘシ祖父母養父母亦之ニ同シ

○分家又ハ絕家ヲ再興ノ者ハ生家ノ祖父母ヲ記シ尙生家ト肩書スヘシ

○年齡ハ本人徵集ニ應スヘキ年ノ一月ヲ以テ計算スヘシ

第七書式　其一　壯丁名簿　用紙郡區欵名ノ美濃罫紙（以下第八書式其三ニ至ル亦同シ）

徵集之部

某何男（養子）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）	本人戶主ナレハ戶主ト記スヘシ		
何村	士族商	何某	年月日生
同	同	同	同
何町	平民農	同	同
定期屆出ヲ怠ル者		同	同
同	同	同	同
弟何某ト同時徵集ニ當ル者	同	同	同
同	同	同	同
父癈疾又ハ不具ノ者	同	同	同

同

同

同

聾唖又ハ癲癇ヲ訴フ者　同

以下倣之

計　何人

其年徴兵相當ニシテ檢査ヲ受クヘキ者ヲ以テ登記ス連名ノ順序ハ甲村ノ者ヲ書シ終ルノ後乙村ニ及ホシ終ニ一郡區ニ編成スヘシ以下第八書式其三ニ至ル亦同シ現役志願兵及ヒ一ヶ年現役志願兵名簿ハ本簿ニ准スヘシ

第七書式　其二　壮丁名簿

徴集猶豫之部

某何男（養子）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）　本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ

何村　士族商　實（在）父母六十歳何ヶ月嗣子　何　某

年　月　日生

同

何町　平民農　戸主　同

同

同　某學校教員　同

同

同

同　某學校何ヶ年課程ヲ卒リタル生徒　同

同

以下傚之

計何人

其年徴兵相當ニシテ徴兵令第十七條第一項第四項ヲ除ク第十八條第五項第六項ヲ除ク第十九條第二十一條ニ當ル者ヲ登記スヘシ

第七書式　其三　壯丁名簿

除役之部

某何男（養子）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ

何町　平民工　重懲役何年　何　某

年月日某裁判所宣告　年月日生

以下傚之

計何人

第八書式　其一　壯丁異動名簿

異動徴集之部

十八年徴兵

某何男（養子）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ　何　某

何村　士族商　郡區町村某ノ養嗣子ニテ徴集猶豫ノ處年月日離縁　同　年　月　日　生

何町　平民雑業　戸主ニテ徴集猶豫ノ處年月日戸主ヲ罷メ届出ヲ怠ル　同　同

十九年徴兵

同　同

十九年徴兵撿査ノ節身幹四寸七尺　同

以下倣之

計何人

第八書式　其二　壯丁異働名簿

異動入營延期之部

十八年徵兵

某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)　本人戶主ナレハ戶主ト記スヘシ

何村　平民農　何

十八年入營ノ節病氣十九年檢査ノ節同斷　年　月　日　生

十九年徵兵

同　同

十九年入營ノ節病氣　同

以下倣之

計何人

原本町村ノ位置ニ同ノ字サ脱シタルナラン

第八書式　其三　異働名簿

異動先入兵之部

十八年徴兵

某何男（養子）（兄）（弟）（伯）（叔）（甥）本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ　何某

何村　平民農　年月日生

十八年徴兵検査ノ節失踪十九年同断

十九年徴兵　同

同　同

十九年徴兵検査ノ節無故参会セス

以下倣之

計何人

第九書式 國民兵名簿

姓名	住所	誕生年月日	族職業	備考
某何男某子次兄次男(弟)(叔父)(甥)本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ 何某	郡(區)町(村)	年月日	士族 農 平民 工	
同	同	同	同	
同	同	同	同	
同	同	同	同	

用紙美濃紙

國民兵名簿

姓名 住所 誕生 族職業 備考

何府縣